

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.272

2016年1月

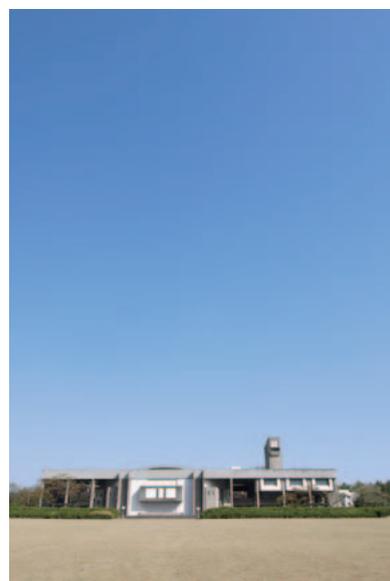
平成28年 松尾総長年頭あいさつ「新年を迎えて」



目次

●年頭あいさつ	
平成28年 新年を迎えて	3
●ニュース	
第4回石田賞授賞式を挙行	8
永年勤続者表彰式を開催	8
平成27年度秋季新入留学生歓迎懇談会を開催	9
グローバルリーダー育成プログラムを開催	9
平成27年度国際会議開催支援セミナーを開催	10
成均館大学との共同シンポジウムを開催	10
キャンパスコンサートを開催	11
馳文部科学大臣が本学を視察	11
全学同窓会第2回講演会を開催	12
入管法研修会を開催	12
●知の未来へ	
高い能力を持った小さな分子を作る	13
澁谷 正俊（大学院創薬科学研究科講師）	
●知の先端	
超高品質 SiC 結晶の溶液成長	14
宇治原 徹（未来材料・システム研究所教授）	
●キャンパスクローズアップ	
創薬科学研究館	16
●部局ニュース	
一般相対論誕生100年記念市民講演会を開催	18
高大接続研究センター公開講演会を開催	19
第22回名古屋ビジネスセミナーを開催	19
エコトピア科学に関する国際シンポジウム2015を開催	20
フィンランドの高校生が本学を訪問	20
多様性理解促進のためのシンポジウムを開催	21
●受賞者一覧	22
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成27年11月16日～12月15日	29
●イベントカレンダー	32
●ちょっと名大史	
「衛生のみち」をたどる — 愛知医学校と近代医学の <small>あけぼの</small> 曙 —	36

平成28年 新年を迎えて





名古屋大学

総長 松尾 清一

新年あけましておめでとうございます。名古屋大学全学同窓会の皆様、教職員と学生の皆様、そして名古屋大学に日頃ご理解と支援を賜っております全ての皆様に、新しき年のご挨拶を申し上げます。

私は昨年4月1日から名古屋大学第14代総長の職に就き、はや9カ月余りが過ぎました。就任前の3カ月も含めまして、2015年には本学の内外で大変多くの出来事があり、総長として直接対応を迫られる課題は山積し、あっという間に新年を迎えた次第です。本学の学生、教職員併せて20,000名以上の人々の先頭に立つということの責任の重大さを一層感じながら、新年を迎えています。

さて、総長就任以来最大の課題の1つは、来年度（2016年4月）から始まる国立大学法人の第三期中期目標・中期計画期間に向けての本学の目標設定であります。2004年度に国立大学が法人化されて以来、6年ごとに目標と計画を立て、それをもとに国が評価するという仕組みです。第一期はホップ、第二期はステップ、そして第三期はジャンプの年、というように例える人がいます。確かに、国立大学は法人化以降、ガバナンスや運営方法に大きな変化がみられています。一方で、国立大学を安定的に運営するための国の運営費交付金は持続的に減額されており、このまま減額が継続あるいは一層大幅な減額ということになれば、すべての国立大学でミッションの遂行に深刻な影響が出ることは確実です。しかし第三期を国立大学法人化のジャンプ



総長就任式



JDP シンポジウム



TGU シンポジウム

の年あるいは仕上げの年と考えると、更なる大学改革の必要性は一層高くなるものと思います。現在、多くの大学が第三期に向けて、持続可能な財務経営計画の作成に取り組んでいますが、もちろん本学も例外ではありません。私は総長就任前から、第三期に向けての戦略を検討してきました。厳しい状況ではありますが、積極的かつ自律的に大学改革を進めて、ピンチをチャンスに変えたいと思っています。

昨年7月には、私の任期中に名古屋大学をどのようにしたいのか明確にするためのプランである、「名古屋大学松尾イニシアティブ NU MIRAI 2020 (Nagoya University Matsuo Initiatives for Reform, Autonomy and Innovation 2020)」を、役員並びに多くの教職員の協力のもと作成し、公表しました。この中で私は、最大任期の2020年度末までに達成すべき目標を、5つの領域に分けて示しました。

第一は、世界標準の教育です。これにより、本学における高等教育が世界に通用するような質を担保するとともに、日本人学生の海外留学並びに海外からの留学生の受け入れをより一層増加させ、広く優秀な学生を確保するだけでなく、多様性と異文化交流が日常的に存在する環境の中で、世界を舞台に活躍できるリーダーを育成することを目指しています。アドミッション（入学）、カリキュラム、学位授与の3つのポリシーの統一、英語教育の推進、留学生のための環境整備、日本人学生が海外に留学するための支援体制の整備など、多くの解決すべき課題があります。本学では既存の組織を改組して、入試や高校大学との接続も含め、高等教育を統括的に考える部署を、今年中に創設することを目指しています。

教育の質保障という点では、海外一流大学との大学院共同学位（ジョイントディグリープログラム、JDP）の推進も目標の大きな柱です。既に大学院医学系研究科が、オー



名大レクチャー

ストラリアのアデレード大学と我が国初のJDPを昨年10月からスタートさせており、これに続いて、大学院理学研究科、大学院生命農学研究科等においても、第二、第三のJDP創設に向かって活発に動いています。また、2002年に大学教育に関する国際交流を目的として本学を中心に結成した学術ネットワークである国際学術コンソーシアム(AC21)は、現在、アメリカ、フランス、オーストラリア、ドイツを含む世界11カ国から19大学の学長・代表者が参加しており、名古屋大学の国際学術交流のシンボルとなっています。今年は5月にドイツのケムニッツで総会が行われます。

現在進行中の文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業では、本学が今後どのように国際的な教育・研究を展開して、世界屈指の大学に成長するかを提案しています。この方向性は「NU MIRAI 2020」とも一致しており、実現のためにどのような課題があり、その克服を通じていかに実行するかが問題です。昨年5月には、改めて本学の現状や課題、ビジョンについて全学的に討議を行い、目標や問題意識の共有を図りました。

本学では、文部科学省・日本学術振興会の事業で次世代型リーダーを育成するための博士課程教育リーディングプログラムが現在6つ走っています。これは東京大学に次ぐ数ですが、多くの教職員と学生が関わり、国際的な視野、異分野・異文化との交流、英語力とコミュニケーション能力、リーダーとしての資質の獲得を目指しています。国の支援期間終了後の継続発展が大きな課題となっていますが、今後の組織改革や財務改革と合わせて、内製化を図り、成果を生かすことにしています。

第二は、世界最先端の研究の推進です。2014年には赤崎 勇特別教授、天野 浩未来材料・システム研究所教授がノーベル物理学賞を受賞され、本学の研究力の高さを



ITbM 竣工



宇宙地球環境研究所設立記念式典

世界中に発信することになりました。21世紀に入ってからそれまで、ノーベル賞を受賞した日本人13名のうち6名が本学に関わりのある研究者であったことは、日本のみならず世界に大きな驚きを与えました。昨年10月3日には、スウェーデン大使館で日本・スウェーデン学長サミットが開催され、本学が共催大学として日本側の窓口となったことも、これまでの本学の輝かしい業績が認められてのことであると思います。私のみならず本学のすべての関係者は、今後も様々な分野において本学が世界で超一流の研究成果を挙げ続けることを願っています。そのためには、優秀な若手研究者が超一流のメンター（指導者）のもとで、のびのびと研究できる環境が大切であると考えています。その様な形を整備するために、どのような戦略と具体的なアクションが必要か、組織的な検討を行っています。このような観点のもと、文部科学省世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI、World Premier International Research Center Initiative）では、若手中心、国際性と外国人研究者、女性参画、異分野融合、世界最先端研究といったキーワードで括れる挑戦的な取り組みを進めるよう促しています。幸いにも本学は、トランスフォーメティブ生命分子研究所（ITbM、Institute of Transformative Bio-Molecules）がこのプログラムによる拠点として採択され、最先端の研究成果が生まれつつあります。昨年、同研究所の建物も竣工し、一層研究に拍車がかかるものと期待しています。本学では、第二、第三のITbMが生まれるよう、様々な施策を進めることにしています。

また、本学の優れた研究という点では、宇宙、太陽、地球環境の分野があります。これまで3つの研究所・センター（太陽地球環境研究所、地球水循環研究センター、年代測定総合研究センター）がありましたが、いずれも規模が小さく連携も必ずしも十分と言えませんでした。本学ではこれらを統合して、昨年10月に宇宙地球環境研究所とし

て新たに出発いたしました。地球・太陽・宇宙を1つのシステムとしてとらえ、そこに生起する多様な現象のメカニズムや相互関係の解明を通して、地球環境問題の解決と宇宙にひろがる人類社会の発展に貢献することをミッションにしており、現在、全国共同利用・共同研究拠点に申請中です。

一方、国・文部科学省では、来年度から優秀な若手研究者の流動化と研究の場保障を目指した卓越研究員制度がスタートし、また博士課程教育リーディングプログラムの後継とも目されている卓越大学院制度が急ピッチで検討されています。さらには、大胆な規制緩和により大学を変えていく特定研究大学構想も同時に検討されています。このように、国レベルでの大きな動きがある中で、本学がどのように世界最先端の研究を発展させていくのか、2016年は大きな節目の年になると思います。

第三は、本学の国際化を一層推し進めること、そして多様性を持ったキャンパスにすることです。国際交流、特に欧米の大学との連携、アジアへの一層の展開を共に推進し、最終的には「アジアと共に学び、世界に挑戦する」という目標の実現を目指します。本学は歴代総長の一貫した方針のもと、10年以上にわたってアジア各国の大学や行政機関と連携・交流を推進してきており、他の大学には見られない名古屋大学の貴重な財産となっています。

私自身は前職でありました産学官連携担当副総長時代に、何度か米国ノースカロライナ州にあります海外拠点を起点として、いわゆるリサーチ・トライアングル（ノースカロライナ州立大学、ノースカロライナ大学チャペルヒル校、デューク大学）を訪問していましたが、本学の海外活動、特にアジア展開をこの目で見ることが重要であると考え、9月下旬に中国交流センター創設10周年記念行事への参加を兼ねて、中国4都市・7大学（杭州—浙江大学、南



中国交流センター10周年記念式典

京一南京大学、上海一上海交通大学、復旦大学、同濟大学、北京一北京大学、清華大学)を訪問しました。10月上旬から中旬にかけては、アジアサテライトキャンパス学院(ASCI)の現地キャンパスでの入校式・開校式や博士課程教育リーディングプログラム視察などのため、カンボジア、モンゴル、ラオスを訪問、10月下旬には安倍晋三内閣総理大臣の中央アジア歴訪時の首脳会談陪席に合わせて、ウズベキスタン・日本法教育研究センター開所10周年記念式典及びウズベキスタンサテライトキャンパス開校式のためにウズベキスタンを訪問しました。さらに、11月上旬には日本留学フェア(日本の大学並びに日本への留学説明会)及び日本ウズベキスタン学長会議の主催校としてウズベキスタン再訪、12月初めにはやはりフィリピンサテライトキャンパス開校準備のための連携協定締結及び現地視察のためにフィリピンを訪問と、あわただしく回ってきました。まだすべての関係国に行っていませんが、訪問した国では、①同窓会海外支部が確立しており本学卒業生の結束が固い、②政府高官などと人脈が形成されている、③本学の現地事務所のアクティビティーが高い、④大学院法学研究科、大学院医学系研究科、大学院生命農学研究科、大



HeForShe キャンペーン

学院国際開発研究科など複数の専門領域での交流が広がっている、⑤本学への現地政府並びに教育機関からの信頼が大変厚いことを実感し、今後の本学の方向性を考えるうえで大変参考になる歴訪でした。来し方の10年間を想い、今後の10年でどのような展開を図るか、新たな戦略の必要性を感じています。特にASEAN諸国では、連携・統合の動きが加速しており、21世紀の早い時期に間違いなく世界の舞台で主役の一つになることが予想されます。本学が掲げる「アジアと共に学び、世界に挑戦する(Study with Asia, and Challenge to the World)」を実践することが重要です。

多様性を実現する上で重要な要素である男女共同参画については、本学は長年にわたる取り組みが評価され、昨年5月にジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関(UN Women)が展開するHeForSheキャンペーンの中心事業である「IMPACT10x10x10(男女共同参画を推進する国家元首、企業トップ、大学学長それぞれ10名)」に世界の学長10名の内の一人に選ばれました。日本における男女共同参画推進の中心的な学術機関として、学内はもとより、産業界、行政、そして広く社会に情報を発



ウズベキスタンサテライトキャンパス開校式



NIC 竣工



未来材料・システム研究所看板除幕式



GaN 研究コンソーシアム設立会見

信じています。

第四は産学官連携の一層の推進です。「NU MIRAI 2020」にある Innovation の実現は大学だけでは不可能であり、大学での研究成果を社会に広く浸透させるために産業界・企業や国・地方自治体などの行政との連携が不可欠です。数年前から本学では産学官連携を推進するための大掛かりな組織改革を実行し、基礎研究から実用化までをシームレスに支援する新たな組織として学術研究・産学官連携推進本部を設置しました。本学における産学連携の象徴となっているのが、昨年4月にオープンしたナショナルイノベーションコンプレックス (NIC) です。これは国の大型プロジェクトであるセンター・オブ・イノベーション・プログラム (COI Stream) の拠点にもなっており、2014年4月から開始した産学協同研究講座・部門の多くもこの建物に入り、一つ屋根の下で大学と企業が協同研究する体制を形成しています。関連する事務部門、URA (University Research Administrator、知財管理も含む研究支援の専門職) もすべて、NIC に集積させています。

また、昨年10月には省エネルギーを目指す最先端研究推進及び人材育成のため、エコトピア科学研究所を改組して新たに未来材料・システム研究所を創設しました。この研究所も、現在、全国共同利用・共同研究拠点に申請中です。この研究所の中心になるのは研究所内に設置され、天野教授をセンター長とする未来エレクトロニクス集積研究センターです。同時に、オールジャパンの体制で窒化ガリウム (GaN) 研究の拠点を名古屋地区におくために、本学と名城大学、名古屋工業大学、豊田工業大学、産業技術総合研究所、物質・材料研究機構が幹事機関となって、全国の大学研究者、多数の企業の参画を得てコンソーシアムを立ち上げました。GaN の基礎研究をすすめる、この成果をシームレスに照明及びパワーデバイスを中心とした幅広い分野

に応用し、産業化することを目指します。

本学では今後、産学官連携がシナジーを飛躍的に発揮できるように、様々な取り組みを進めて、最終的には社会のイノベーションにしっかりと貢献したいと考えています。

最後に、大学全般の改革に向けての抱負を述べたいと思います。先にも述べましたが、来年度から始まる第三期中期目標・中期計画期間 (2016年4月から6年間) では、国立大学はさらなる進化が必要になります。そのための課題は、①明確な目標設定、②積極的自律的な組織改革、③持続可能な財務計画、④合理的で効率的な業務運営、⑤これらを可能にする新しいガバナンス (大学統治) の形態であると考えています。特に⑤については、大学の運営にあたってボトムアップからトップダウンへというような単純な図式は当てはまらないと考えています。総長を中心とする大学執行部と、教員・研究者の代表であるファカルティ、そして事務部門を含む職員との間で責任ある共同統治 (シェアード・ガバナンス) の形を追求したいと考えています。そのための対話を既に始めていますが、最終的には合理的で安定したシステムに高めていきたいと考えています。大学においては人が宝であり、特に教員・研究者一人ひとりが個人として、また教育研究グループの一員として、最大限の能力や才能を発揮できる環境が重要であると考えています。これまで述べてきたように、本学の事業は多岐にわたりますが、最終的には2000年に制定された名古屋大学学術憲章の精神に立ち戻ることに、すなわち本学の使命である「人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、人々の幸福に貢献すること」をしっかりと掲げる必要があります。この目標に向かって、教職員学生一同、堂々と胸を張って進んでいければ幸いです。

学内外のすべての皆様のご理解とご協力、そして忌憚のないご鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。

第4回石田賞授賞式を挙

第4回石田賞授賞式が、11月17日(火)、豊田講堂第5会議室において挙行されました。石田賞は、石田財団からのご寄附の意志に基づき、将来の発展が期待できる優れた研究能力を有する若手研究者を顕彰し、その研究意欲を高め、研究の発展を支援する目的で創設されました。今年度は第4回として、人文・社会科学、自然科学の両分野に分



記念撮影（左が総長、右が丸山特任助教）

け、東海3県（愛知、岐阜、三重）を対象として募集を行い、慎重な審査の結果、自然科学分野から丸山大輔高等研究院特任助教を顕彰することに決定しました。

授賞式には、松尾総長、國枝理事、松下理事、木村理事及び審査委員が出席し、総長から、「今回の受賞を励みに、今後も高い志をもって自らの研究に精進し、我が国の学術研究の発展に貢献していただきたい」とのあいさつがあり、松下理事から受賞者の紹介及び研究テーマについての審査講評がありました。

また、受賞者からは、「石田賞の受賞は、光栄なことであり、今後もますます研究に精進したい」との謝辞がありました。

その後、特別会議室において、受賞者及び授賞式出席者の懇談が行われ、研究の動機や今後の研究の発展性についての意見交換が行われました。

永年勤続者表彰式を開催

平成27年度名古屋大学永年勤続者表彰式が、11月20日(金)、豊田講堂第1会議室において挙行されました。

受彰者34名のうち29名が出席した表彰式では、松尾総長から一人ひとりに表彰状が手渡された後、受彰者へこの20年間の職務の精励に対して労いの言葉があり、その日々の積み重ねにより、本学が発展できたと感謝の言葉が述べら



総代の謝辞

れました。

続いて、受彰者が採用された平成7年当時の世相、出来事、総長自らの思い出の紹介があり、会場は懐かしい雰囲気になりました。

最後に、「来年度から第3期中期計画、中期目標が始まるので、引き続き職務に精励して欲しい。これからの名古屋大学のさらなる発展を担うのは、ここにお集まりのみなさんであり、今後も教育、研究、医療を支え、ますます活躍して欲しい」とエールが送られました。

引き続き、受彰者を代表して清水直美教育推進部事業推進課課長補佐より、この20年間を振り返り、大学院の重点化、国立大学の法人化、附属病院の再整備、ノーベル賞受賞ラッシュ等の出来事の紹介があり、この日をまた新たな契機として、私たち一人ひとりが皆で力を合わせ、本学のさらなる発展に少しでも寄与できるよう精励したい、と決意のこもった謝辞が述べられ、終始お祝いムードに包まれた表彰式となりました。

平成27年度秋季新入留学生歓迎懇談会を開催

平成27年度秋季名古屋大学新入留学生歓迎懇談会が、11月20日(金)、南部生協において開催されました。この懇談会の趣旨は新入留学生の今後の留学生活が実のあるものになるよう激励し、留学生同士のみならず、留学生関係教職員との懇談を通して一層の相互理解・交流を深めることを目的とし、当日は、新入留学生、教職員など約350名の参



懇談会に参加した留学生

加がありました。

最初に松尾総長から歓迎、激励のあいさつがあり、これを受け、新入留学生を代表して、生命農学研究科のカム・コンボイ(カンボジア)さんと、法学研究科のチン・モニー(カンボジア)さんが、それぞれ日本での留学についての抱負等を述べました。続いて、渡辺理事の発声による乾杯の後懇談にうつり、新入留学生が総長や教職員を囲んでこやかに歓談したり、記念撮影したりする姿が会場のあちこちで見られました。懇談会は、福田国際言語センター長の閉会のあいさつの後、大盛況のうちに終了となりました。

グローバルリーダー育成プログラムを開催

グローバルリーダー育成プログラムが11月21日(土)、国際棟 CALE フォーラムにおいて開催されました。これは国際教育交流センターアドバイジング部門主催によるものであり、同センターでは数年に渡り、学生のグローバルリーダー教育を行ってきました。今回は平井達也立命館アジア太平洋大学准教授を講師に招き、「Inspire the



会場の様子

Nagoya University! 私たちの名古屋大学ビジョンを多国籍メンバーで語ろう!」をテーマに組織開発の手法であるアプリシエイティブ・インクアリーを用いて、これからの理想の名古屋大学ビジョンについて熱く語り合いました。

在学生、卒業生、そして教員、計30名の参加があり、日本語や英語を交えて、本学への愛情と誇り、これからのビジョンを共有しました。在学生にとっては、卒業生や教員と対話する機会となり、大学の取り組みに対する理解が深まり、視野が広がったという声が聞かれました。また、卒業生にとっては大学で経験してきたことを振り返る機会となり、教員にとっては在学生や卒業生たちが本学をどう捉えているかについて聞く貴重な機会となりました。立場の異なるメンバーで本学について語り合い、大切にしていきたい大学の核心(コア)、そしてこれから作っていききたい大学の理想像を検討できたことはとても有益な機会となりました。また、参加者一人ひとりが、それぞれの持ち味や強みを活かして、今後グローバルリーダーとして主体的に活躍していくために必要な手掛かりを得られたプログラムとなりました。

平成27年度国際会議開催支援セミナーを開催

平成27年度国際会議開催支援セミナーが、11月24日(火)、ES総合館1階ES会議室において開催されました。

本セミナーは、毎年、学内で国際会議を開催する本学教職員を対象に実施され、今年で6回目を迎えました。今年度も公益財団法人名古屋観光コンベンションビューローとの共催で開催し、約70名の教職員及び関係者が参加しました。



講演を行う藤巻副理事

セミナーでは、國枝理事が開会のあいさつを行い、本学で国際会議を開催する意義等について言及しました。続いて、「2015年国際超伝導エレクトロニクス会議の準備事例」と題した講演が、学術研究・産学官連携推進本部副本部長である藤巻副理事より行われ、実際に国際会議を主催した経験に基づき、Chairpersonとしてすべきこと、資金面での準備や集客など、今後、国際会議を主催する参加者に役立つ内容が紹介されました。また、平成26年に本学で開催された国際会議開催件数が全国で第2位となったことが報告され、本学の存在感を高めるため、さらに国際会議開催件数を増やす必要があることが述べられました。続いて、名古屋観光コンベンションビューローの北折真人コンベンション部長による講演が行われ、名古屋市におけるユニークベニュー、アトラクションの紹介、コンベンションビューローの支援内容等についての説明がありました。

最後に行われた個別相談では、参加者が講演者や関係者と活発な質疑及び情報交換を行いました。セミナー終了後、参加者からは、とても参考になった、との感想が多く聞かれ、有意義なセミナーとなりました。

成均館大学との共同シンポジウムを開催

名古屋大学・成均館大学共同シンポジウムが11月26日(木)、27日(金)の2日間、本学において開催されました。このシンポジウムは、平成22年に第1回交流会を本学において開催以降、毎年定期的に開催されています。

5回目となる今回は、ニューロサイエンス分野にテーマを絞り、本学からは、鈴置保雄工学研究科教授、堀 勝未

来社会創造機構教授、篠原高等研究院長、若林俊彦医学系研究科教授をはじめ、理工学系、医学系等の教員13名、成均館大学からは、劉 址範副学長をはじめ、医学、薬学、バイオ工学分野等の教員6名が参加しました。

共同シンポジウムは、松尾総長の歓迎あいさつに始まり、双方の参加者がスライドを用いての英語による一人約30分の発表を行い、質疑も活発に展開されました。シンポジウムの最後には、WPI-next(大学院理学研究科)の見学も行われました。

また、両大学間の情報交換だけでなく、それぞれの大学内の研究者間でも積極的な討論が行われ、多様な視点から同じ分野に取り組む研究者間の大学を越えた情報共有に資する密度の高い学際的シンポジウムとなりました。

2日間に渡って行われた本シンポジウムは、来年度は成均館大学水原キャンパスにおいて開催することを予定しており、劉 址範副学長、鈴置教授の閉会のあいさつによって盛況のうちに終了しました。

今後も両大学がより活発に意見交換をし、さらなる協力・信頼関係を築きながら研究交流が行われることが期待されます。



シンポジウム参加者による記念撮影

キャンパスコンサートを開催

愛知県立芸術大学との共催によるキャンパスコンサートが、12月2日(水)、豊田講堂ホールにおいて開催されました。このコンサートは、本学卒業生から平成25年にグランドピアノが寄付されたことに伴い、年2回、愛知県立芸術大学と協力して開催しています。

今回は、前半に、愛知県立芸術大学大学院音楽研究科



演奏の様子

博士前期課程2年の川合亜実さん(ピアノ)が、セルゲイ・ラフマニノフ「楽興の時 作品16」より第1番、第2番、第3番、第4番を演奏し、後半には、同博士後期課程の國枝由莉さん(ピアノ)と同大学音楽学部卒業生の江頭摩耶さん(ヴァイオリン)による、セザール・フランク「ピアノとヴァイオリンのためのソナタ イ長調」が演奏されました。

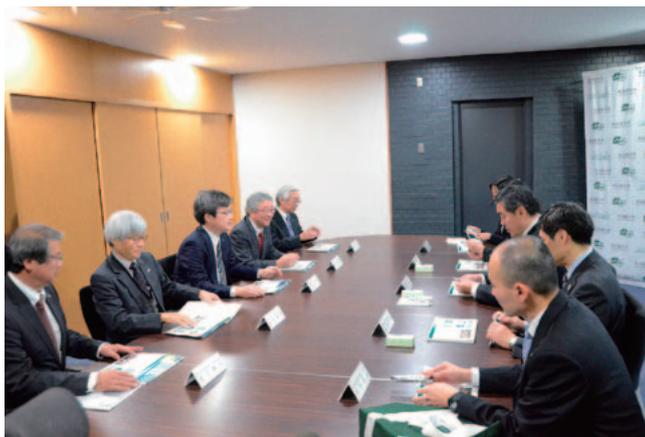
1時間弱のコンサートでしたが、参加者からは、高い演奏技術と迫力ある生の楽器の音色に、「大変素晴らしいコンサートで感動した」、「キャンパス内でこのような企画があり嬉しい」等の声が多数寄せられました。

会場には、本学学生や教職員のほか、地域住民の方も訪れ、約380名の聴衆が冬の澄んだ夜のコンサートを楽しみました。

馳文部科学大臣が本学を視察

馳 浩文部科学大臣が12月3日(木)、本学東山キャンパスの視察に訪れました。今回の視察は、福井、京都、愛知の各施設の視察の一環として実施されました。

馳大臣は最初に中央図書館を訪れ、理事等役員ならびに天野 浩未来材料・システム研究所教授が出迎えました。まず、小会議室において松下理事から本学の概要説明が行



概要説明の様子

われ、続いて、天野教授から次世代半導体 GaN (窒化ガリウム) 研究開発の概要説明が行われました。

次に、馳大臣は天野教授の研究室を視察しました。実験用のクリーンルーム室内において、結晶の作製から、それを加工してLEDやパワーデバイスにいたる過程について、天野教授及び研究室の大学院生から説明を受けました。続いて、新田州吾未来材料・システム研究所特任准教授から実際にデバイスの動作についての説明が行われました。

最後に、天野教授からノーベル賞受賞メダルが披露され、馳大臣は実物のメダルを手にしながらか、あらためて天野教授のノーベル物理学賞受賞を讃えました。

視察終了後に行われた報道陣の取材の中で、馳大臣から国立大学等研究機関における研究設備のさらなる充実の必要性が述べられるなど本学にとって大変意義のある視察となりました。

なお、馳大臣は本学の視察後に名城大学を訪れ、赤崎 勇特別教授等と面会を行いました。

全学同窓会第2回講演会を開催

名古屋大学全学同窓会第2回講演会が12月8日(火)、理学南館坂田・平田ホールにおいて開催されました。この講演会は全学同窓会と一般社団法人学士会との共催、本学の後援により開催され、学生、教職員、名誉教授、一般市民など約140名の参加がありました。今回は、講師として全学同窓会副会長である宮池克人中日本高速道路株式会社



講演の様子

長を招き講演が行われました。伊藤義人全学同窓会幹事の司会のもと、講演に先立ち、柴田昌治全学同窓会副会長、久保正彰学士会理事長よりあいさつが述べられました。

宮池副会長の講演の中では、高速道路の歴史、高速道路事業、高速道路のストック効果、今後の課題、交通安全の5つのテーマが取り上げられました。

講演会終了後には、グリーンサロン東山において夕食会が開催されました。本学役員等を含め30名が参加し、着席バイキング方式で行われました。最初に、柴田副会長と松尾総長からあいさつが述べられ、久保理事長の乾杯の発声により会は始まりました。終了近くで、宮池副会長に再度、講演内容についての質問も行われ、大いに盛り上がりました。

最後に、竹下事務局長から最近の大学事情について簡単に説明があった後、木村理事が締めあいさつを行い、大変和やかな雰囲気の中に会は終了しました。

入管法研修会を開催

留学生担当者のための入管法研修会が、12月10日(木)、全学教育棟において開催されました。この研修会は国際教育交流センターの主催によるもので、本センター教育交流部門員である浅川晃広国際開発研究科講師が法務省入国管理局・難民審査参与員でもある立場・経験から、ビザ・コンプライアンスの重要性、入管法と外国人、在留資格「留



研修会の様子

学」の意味、強制送還の可能性、などについて講演しました。

講演の中では、留学生担当者の入管法に関する知識の必要性、外国人が日本に滞在するための条件、留学生に在留資格について説明し納得させるための重要性などがポイントとして挙げられました。

講演終了後の質疑応答では、「短期訪問プログラムで海外から学生を招へいする際の講演謝金の受領の可否」、「留学生となるも訪問型のプログラムのため、日本で居住しない場合はどうなるのか」、「外国人を研究アシスタントや技術補佐員で雇用する場合の在留資格」などについて質問がありました。当日は、留学生や外国人研究者に関わる業務を行っている教職員を中心に64名の参加があり、参加者全員が熱心に講義及び質疑応答に耳を傾けていました。

本センターでは、国際教育交流に関わる専門知識をもった教員が多く所属しています。年に数回研修会を開催しており、今後もこのような研修会を企画する予定です。

高い能力を持った小さな分子を作る

大学院創薬科学研究科講師
澁谷 正俊

現代においても医薬品の最も大きなシェアを占めるのは低分子医薬品です。薬用植物等から抽出されるもの、抽出された化合物から構造の一部を修飾し作られるもの、糖やアミノ酸を始めとする大量入手容易な化合物から化学合成によって人工的に作られるものなど様々なものがありますが、極めて構造の類似した分子であっても微量に含まれる不純物が重大な毒性を発現させる可能性があります。そのため、医薬品開発に於いては、単一化合物を高純度に供給するための、選択的な分子変換手法が重要となります。

私は、10年以上にわたってアルコール酸化反応について研究を行ってきました。アルコール酸化反応は、大学に入って有機化学を学ぶと必ず教わる化学合成の基本となる反応です。そのため、これまでに数多くの手法が開発されておりますが、毒性の高い6価クロムを用いる方法や危険性の高い試薬を用いるものなど意外にも医薬品製造など大量スケールで実施できる方法はほとんどありません。その中でも、数少ない工業プロセスへも適用可能な方法として知られているのがTEMPOとよばれる触媒を用いる方法です。TEMPOは、分子量156の炭素、水素、窒素、酸素の4種のごく普通の元素からなる小さな分子です(図1)。特徴は、ニトロキシラジカル

と呼ばれる窒素原子と酸素原子が直接結合し、その上に対を作らない電子を持った構造単位をもつことです。ニトロキシラジカルは、還元され1電子を与えられてヒドロキシルアミンとなり、酸化され1電子を失いオキソアンモニウムとなります(図1)。この特性によってTEMPOは、アルコール酸化触媒として機能し、消毒剤等として広く用いられている安全で安価な次亜塩素酸ナトリウム(次亜塩素酸ソーダ)によるアルコール酸化反応を可能にします。私は、このニトロキシラジカルという構造単位に大きな可能性を感じて研究を行い、TEMPOの持つ触媒活性をはるかに凌ぐ高活性触媒AZADOの開発に成功しました(図2)。AZADOも分子量152の小さな分子ですが、1分子あたり最大で1万分子以上の酸化を触媒します。また、ごく最近では、新たに電荷移動錯体と呼ばれる化学種を利用したアルコール酸化反応や、ヒドロアルコキシ化と呼ばれる反応に対する新しい高活性触媒ヨードフェニルシランの開発にも成功しました(図2)。このように私は、地球上に普遍的に存在するユビキタな元素からなる小さな有機分子に大きな可能性を感じ、触媒としての開発研究を行っています。(J. Am. Chem. Soc. **2006**, *128*, 8412. Org. Lett. **2015**, *17*, 2282. Org. Lett. **2015**, *17*, 3822.)

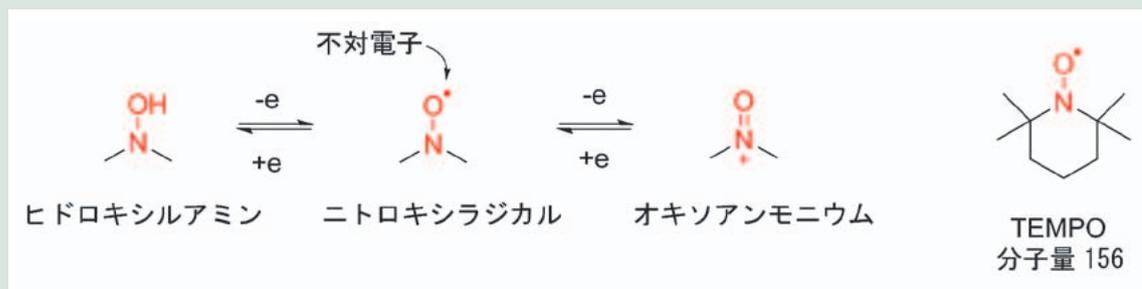


図1 ニトロキシラジカルの反応性とTEMPOの構造

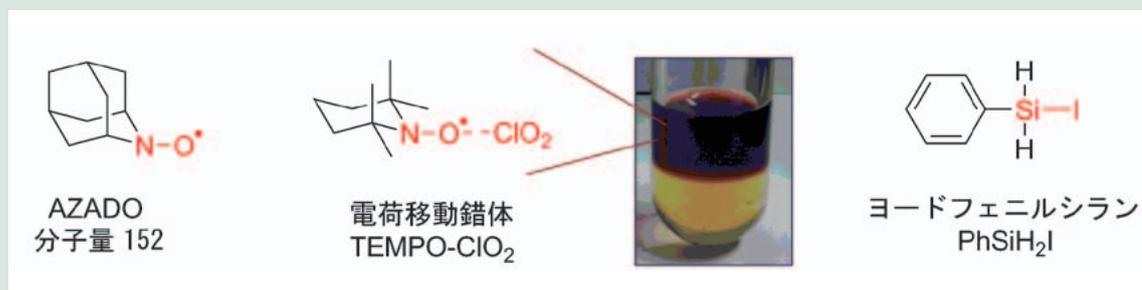


図2 私たちが研究している分子

超高品質 SiC 結晶の溶液成長

宇治原 徹 未来材料・システム研究所教授

私たちの研究テーマは「結晶成長」です。結晶（図1）とは、原子や分子が規則正しく配置した物質のことを指し、身近なところでは雪の結晶や塩の結晶などが思い浮かびます。ほかにも、金属やセラミックス、半導体材料など、固体の素材の多くが結晶です。また、医薬品の開発の分野では、タンパク質の構造解析が行われますが、その際には、タンパク質の結晶が必要となります。結晶成長とは、これらの物質による結晶が小さな核から大きくなっていくプロセスのことを指します。結晶成長の魅力の一つは、結晶となる素材が変わっても、その成長メカニズムの多くは共通であり、普遍的であることです。

私たちの研究室では、主に半導体、セラミックスなどの結晶成長の研究を行っています。中でも最も力を入れて行っているのが、SiC（シリコンカーバイド）と呼ばれる半導体結晶です。SiC半導体は、パワーデバイス用の半導体として期待されています。パワーデバイスとは、大きな電流や電圧などを制御する電力用のデバイスです。例えば、ハイブリッドカーなどのモータを制御するにはこのパワーデバイスが必要となりますし、電圧や電流の変換を必要とするところの多くでパワーデバイスは必要となります。現在パワーデバイス

は、シリコンで作製されています。しかし、より高効率に電力を利用するためには、変換時の損失を減少させる必要があります、それに対してSiCは高効率パワーデバイスの実現において、有力な半導体材料として期待されています。パワーデバイスに限らず、半導体デバイスのほとんどは、素材である半導体の結晶品質がデバイス特性に大きく影響します。つまり、SiCの本格的な実用化においても、高品質SiC結晶素材の開発が、必須となります。

私たちは、溶液成長法という手法を用いて、高品質なSiCの結晶成長技術を確立してきました。従来のSiC結晶には転位と呼ばれる結晶の周期性のズレによる欠陥が多く含まれていたのですが、私たちは、それを大幅に減らすことに成功しています。溶液成長法とは非常にシンプルな結晶成長法です。お湯にみょうばんを溶解し、冷ますとみょうばんの結晶が析出してくるのと同じです。ただ、今の場合は、シリコンの融液にカーボン（炭素）を溶解させ、少し温度を下げることでSiCの結晶を成長させます。結晶が成長していくときには、結晶表面にはステップと呼ばれる段差構造が形成されます。このステップが進展することで結晶は成長します。私たちは、この段差構造の高さ



図1：美しい結晶模型をもつ学生。

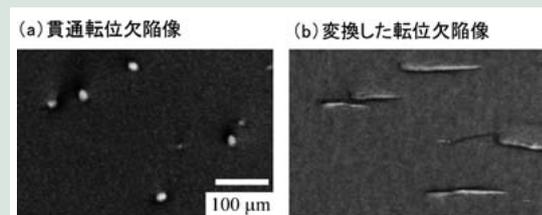


図2：(a) 結晶中の貫通らせん転位と (b) 成長過程において変換した転位のX線トポグラフィー像。

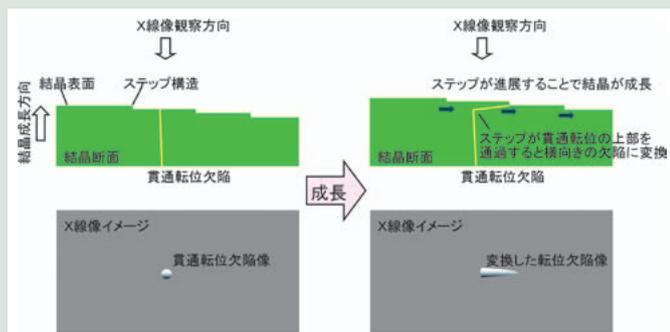


図3：結晶成長過程における転位欠陥の変換過程。最終的に変換した欠陥は結晶外部に排出され、高品質結晶が実現される。

	cm ⁻²	
	従来の市販結晶	溶液成長による結晶
貫通らせん転位	2000	8
貫通刃状転位	10000	200



図4：成長した高品質 SiC 結晶。

を最適にすることで、結晶中の転位欠陥を減らせることに気がきました。図2(a)はSiC結晶のX線トポグラフィー像です。この像は、レントゲン写真と同じように、欠陥の部分が像になって浮かび上がってきます。米粒のように見えるのが、転位の一種である貫通らせん転位です。この貫通らせん転位を多く持つ結晶の上に、溶液成長法で結晶を成長した結果が図2(b)になります。米粒状のものが線状に変化していることがわかります。この変化を図3を使って説明します。結晶の内部に存在した貫通らせん転位は、高さの制御されたステップ構造がその上を進展するときに、横向きに曲げられます。このような横向きの欠陥は、成長がさらに進むと最終的には結晶の外部に排出されます。これにより結晶内部の欠陥は減少するのです。図4は、現在の市販のSiC結晶と私たちの

結晶とを比較したものです。この技術は、世界中でいくつかのグループが取り組んでいますが、特に日本のグループがこの技術に強く、名古屋大学はその中心的役割を果たしています。現在、溶液成長法による結晶の実用化に向けて、企業との共同研究や国プロを通じて、大型結晶化技術、デバイスにおける実証に向けて取り組んでいます。

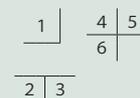
私たちの研究室では、これ以外にも、熱の有効活用を目指したAlN結晶材料や酸化物結晶材料の開発、次世代太陽電池のための新規測定手法の開発、金属-空気電池のための基材結晶の研究など、主にエネルギーに関連する課題に取り組んでいます。今後も、結晶成長の基礎に基づいた材料開発により、新たなエネルギー材料の提案をしていきたいと思っています。

京都大学で合金におけるパターン形成の研究に没頭した学生時代を過ごし、1999年に助手として東北大学金属材料研究所で仕事を始めると同時に結晶成長の世界に足を踏み入れ、名古屋大学に移って今に至るまで、パワーデバイスや、サーマルマネジメントなど、エネルギーに関する材料の「きれいな結晶」を作り出すことを生業としている。最近、研究者や学生にとって大学が「もっと楽しい場所(あるべき姿)」にならないか、と考えながら、魚を捌いている。

うじはら とおる



48. 創薬科学研究館 Pharmaceutical Sciences Building



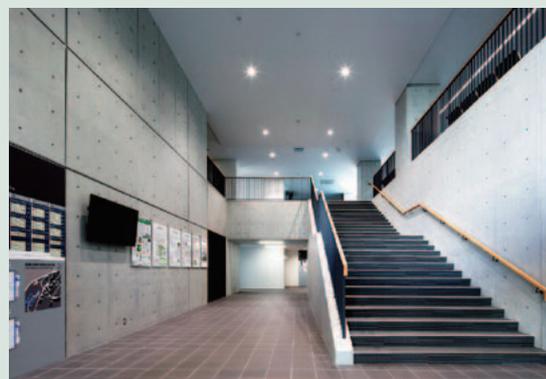
- 1 外観（東面）
- 2 外観（北東面）
- 3 1階エントランスホール
- 4 吹抜け階段室（交流ゾーン）
- 5 研究実験エリア平面図
- 6 5階有機化学共通機器室

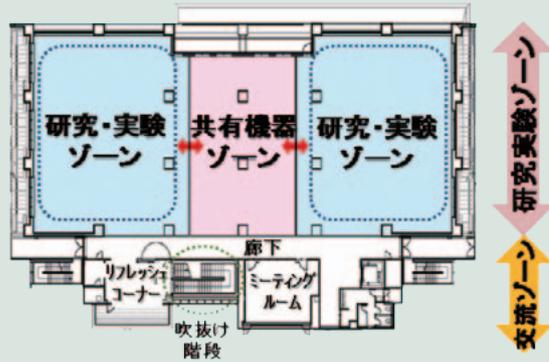
現在、日本が世界に誇る「創薬研究」は、理学・工学・農学・薬学・医学の広範囲の専門家によって支えられていますが、各分野の融合による大学院教育は欧米に比べて遅れており、また、製薬企業においても従来型創薬研究が限界になっています。そこで、実験を中心とした多分野融合型教育の実施による新薬創出の拠点として、平成26年2月から創薬科学研究館（Pharmaceutical Sciences Building）（I期）の建設を開始し、平成27年8月に建物が完成しました。

本施設は創薬科学研究科、ならびに細胞生理学研究センターが利用し、基盤創薬に係わる最先端

の研究・教育を実施する建物です。具体的には、有機化学、構造生物学、生物科学に関する先端研究と、これらの分野を横断する融合研究を展開することで、新しい創薬理論の構築、創薬シーズの開発、次世代創薬を牽引する人材育成を行い、本施設を用いて展開されるこれらの活動と成果が、アカデミア型創薬研究のモデルとなることを目指しています。

1, 2階は事務室の他に、開放されたイートインコーナーや購買、講義室等の共用空間を設けて、研究室や学生の往来・交流を可能にしています。3～6階は研究実験エリアとなっており、





基幹研究室は約18m×19mの柱の無いオープンスクエアとすることで、各研究室の研究特性に即した研究環境づくりを可能にし、将来のレイアウト変更にも対応しています。

環境負荷低減にも配慮し、アースチューブによって熱交換された空気を2階ホール部分に導入しています。また、建物に設置されているドラフトチャンバーは低風量型の機器を採用し、安全を確保しつつ省エネに配慮しています。「研究・実験ゾーン」の東西面にメカニカルバルコニーを集約し、研究内容の変化に伴う設備配管等の更新が容易に行えると同時に、北側街路樹に面した各研究室の彫りの深い窓面が、名大らしい景観を形成しています。

これらの取り組みは、建築環境総合性能評価システムCASBEE名古屋において、定量的に評価され、自然エネルギーを可能な限り活用した施設として、Aランク（大変良い）を獲得しました。

本施設によって従来にない多分野融合教育・研究を実施する拠点として、各分野が保有する先端機器を有効利用した実験・実習室が整備されたことで、次世代創薬科学を牽引し、国際水準で活躍できる優秀な若手研究者の育成を行うことが可能になりました。

（施設管理部・工学部施設整備推進室）

3, 4階に「生物系実験エリア」、5, 6階に「有機化学・構造系実験エリア」を配置することで、研究・実験の相互連携と効率性を考慮した階構成としています。

研究実験エリアの各フロア構成としては、良質な研究環境を確保できる北側に「研究・実験ゾーン」、共用廊下を挟んで南側に縦動線を含む「交流ゾーン」を配置し、明快なゾーニングとしています。

「交流ゾーン」には、吹抜け階段を介して各階交互にミーティングルームとリフレッシュスペースを配置し、フロアごとに完結しがちな研究活動空間に研究域を超えた多様な交流と融合の可能性を引き出す仕掛けとしています。

「研究・実験ゾーン」は、研究・実験機器を集約化した共通機器室を中央に設け、2つの基幹研究室が挟む構成とし、共通機器室には各研究室から直接アクセスでき、効率的な研究活動を可能にしています。

一般相対論誕生100年記念市民講演会を開催

●素粒子宇宙起源研究機構



講演を行う佐藤名誉教授

素粒子宇宙起源研究機構（KMI）では、11月21日（土）、理学南館坂田・平田ホールにおいて、一般相対論誕生100年記念市民講演会を開催しました。関東から九州まで広範囲に及ぶ地域から302名の参加がありました。この市民講演会は全国の一般相対論研究者有志が企画した全国15カ所で開催されているシリーズの1つであり、また、名古屋会場では大学院多元数理科学研究科、大学院理学研究科との共催として、開催にあたり準備等で支援を受けました。

はじめに一般相対論・宇宙物理分野の大家である佐藤文隆京都大学名誉教授から、1905年に発表された特殊相対性理論におけるアインシュタインの果たした役割に対する当時の意外な認識が紹介された後に、一般相対論発表までの数学者ヒルベルトとのやりとりなど興味深い人間ドラマが披露されました。また、第一次世界大戦中に敵味方関係なく科学者が協力して一般相対論検証に取り組んだ様子を強調し、それがまた世界平和への礎になるであろうという興味深い見解が述べられました。次に、杉山直 KMI 基礎理論研究センター宇宙理論部門・理学研究科教授はアインシュタインが宇宙論でどのように「失敗」し、そしてそれ



議論の様子



講演を行う梶田所長

がどのように蘇り、我々研究者を悩ませているかを訴えました。

後半では KMI 副機構長である國枝理事から、ブラックホールの観測的現状をはじめとし、GPS など日常における一般相対論の役割の重要性について解説がありました。続いて、梶田隆章東京大学宇宙線研究所長から、2015年ノーベル物理学賞受賞に関連してニュートリノ振動に関する当時の研究の熱い様子や、現在精力的に取り組んでいる重力波観測の現状が述べられました。また、数年後には国内で本格的な観測が開始されることもあり、特に若い世代の参入への期待を強調しました。

最後に、杉山教授司会のもと、会場で回収した質問票に対して講演者によるアットホームな議論が行われました。佐藤名誉教授からはこれから物理を目指す若者に対し、「100年前に一般相対論の礎となったリーマン幾何学から今後革新的な物理が生まれるとは期待できず、何か物理屋が知らない数学が今後の謎の解明などに重要な役割を果たすであろう」との言葉が述べられ、真に未解明なことには我々は明解な答えを持っていない、だからこそ面白い、ということを再認識させられました。そして、各講演者からの若者へのストレートなアドバイスは貴重なものであり、ライブならではの楽しく貴重なひとときを共有することができました。

高大接続研究センター公開講演会を開催

●大学院教育発達科学研究科

大学院教育発達科学研究科附属高大接続研究センターは、12月5日(土)、ES総合館ESホールにおいて、公開講演会「高大を接続する－米国と日本の高大接続の現在と未来－」を開催しました。全国の大学教職員、県内外の高校教諭、教育学部附属中・高等学校保護者、塾関係者、マスコミなど約120名が参加しました。



講演会の様子

平成26年12月の中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」に続き、昨年1月に文部科学省は「高大接続改革実行プラン」を公表し、高校での2019年からの「基礎学力テスト(仮称)」、2020年からのセンター試験に代わる新しい「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の導入などの計画を公表しています。このような状況のなかで、高校と大学との「学びの接続」のあり方を、国際的な観点から検討するために同講演会は開催されました。

講演会では、木俣副総長によるあいさつの後、大谷同センター長による講演「高大非接続の現状－序にかえて－」が行われました。引き続きアンドリュー・エフラット元マサチューセッツ大学副総長、ノーラ・ステイブン元マサチューセッツ大学シニアレクチャーよりそれぞれ講演が行われました。その後、『大学入試の終焉』の著者でもある佐々木隆夫北星学園大学教授による講演が行われました。各講演終了後には、会場から多くの質問が出され、高大接続に関する関心の高さが示されました。最後に、松田武雄前同研究科長の閉会の辞により、閉会となりました。

第22回名古屋ビジネスセミナーを開催

●大学院経済学研究科

大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センターは、12月3日(木)、日本経済新聞社名古屋支社会議室において、第22回名古屋ビジネスセミナーを開催しました。このセミナーは経済学部同窓会であるキタン会と共同で開催しており、今回は梅森 徹日本銀行名古屋支店長を講師に招きました。



講演を行う梅森支店長

同センターでは、大学院経済学研究科と緊密に協力しつつ、領域横断型の研究を開拓し、その成果を広く社会に還元することを任務としており、同セミナーはその一環として開催したもので、定員100名を超える申し込みがありました。

山田同センター長による開会あいさつに続いて、梅森支店長より「最近の金融経済情勢と展望」と題して講演が行われました。講演の中では、世界経済、日本経済の現状と見通しに続いて、当地経済が全国を上回るペースで回復している要因として、輸出依存度が高いこと、中国経済の減速の影響を受けにくいこと、設備が更新期に当たっていること、そして労働需給がタイトであることの4点が挙げられ説明が行われました。また、少子化対策としての結婚支援や事業承継支援についての思いが述べられました。講演後には質疑応答も行われ、聴衆からは「東海地区に特化した分析がよかった」、「話が具体的で感服した」、「格調高い講演で満足した」などの意見が寄せられました。

同センターでは、今後も地域社会の要請を踏まえ、時宜にかなったテーマにより同セミナーを開催していきたいと考えています。

エコトピア科学に関する国際シンポジウム2015を開催

●未来材料・システム研究所

未来材料・システム研究所は、11月27日(金)から29日(日)の3日間、野依記念学術交流館、IB電子情報館、ES総合館の各会場において、国際シンポジウム“International Symposium on EcoTopia Science 2015 (ISETS '15)”を開催しました。

同シンポジウムは、エコトピア科学研究所(平成27年10



プレナリー講演の様子

月に未来材料・システム研究所に改組)が発足した平成17年以降、隔年で開催しており、今回が6回目の開催になります。会議では、持続可能な社会実現のための様々な問題に関して、資源リサイクル、バイオ材料、バイオマス利用、環境機能材料、エネルギーコンバージョン、スマートエネルギー、放射性物質回収などのセッションに分かれて討議を行いました。

会議には、国内だけでなく、中国、フィリピン、インドネシア、トルコ、米国、ブルガリア、インド、韓国、スイスから305名が参加し、プレナリー講演2件、招待講演18件、一般公演94件、ポスター講演144件の発表があり、各会場において活発な討論が行われました。

また、最終日にはISETS '15のサテライトセミナーとして、市民公開講座「住宅におけるこれからの電力消費のあり方」をIB電子情報館において開催し、55名が参加しました。前半に岩船由美子東京大学特任教授により、「未来のスマートハウス」と題した基調講演が行われ、後半には、家庭での電力消費が今後どのように変わっていくのか、省エネ、スマートハウス、電力自由化といった様々な観点から、有識者と一般市民を交えた議論が行われました。

フィンランドの高校生が本学を訪問

●宇宙地球環境研究所、教育学部附属中・高等学校

フィンランドの高校生24人と引率教員が11月22日(日)から29日(日)の間、本学を訪問しました。これは、フィンランドの高校生が海外の大学や研究機関を訪問して、最先端の科学及び訪問国の文化にふれるという企画の一環として行われたものです。

高校生は、宇宙地球環境研究所において、教員や大学院



附属高校生徒とのおにぎりづくりの様子

生から宇宙天気研究に関する最新の話題や同研究所が参画している人工衛星やレーダー等の大型計画、本学の大学院生の生活について講義を受けました。さらに、京都大学の気象レーダー観測所も訪問し、宇宙環境の観測についての実習も行いました。また、教育学部附属中・高等学校では、附属高校の生徒と一緒に「おにぎり」づくりにも挑戦しました。両国の高校生が共同で調理することで打ち解け合い、互いの国や高校の様子などについて話をしていました。フィンランドの教員からは、日本の高校の授業の様子に加え、生徒が自主的に片付けや清掃する様子が印象深かったという感想も聞かれました。その後、フィンランドの高校生たちは、減災館、2008ノーベル賞記念展示室、博物館、図書館の見学も行いました。

今回の企画は、フィンランドの高校生にとって、日本や日本文化への関心を深めるだけでなく、日本の高校生そして本学への理解、興味を強める良い機会となりました。帰国後には、本学で学ぶことに興味を持った生徒が何人もいるとの嬉しい話も聞かれました。今後もこのような活動を通して、海外の高校生への日本への理解の一助、そして本学で学ぶことを考えるきっかけとなることを期待します。

多様性理解促進のためのシンポジウムを開催

●学生相談総合センター

学生相談総合センターは12月3日(木)、理学南館坂田・平田ホールにおいて多様性理解促進のためのシンポジウムを開催しました。基調講演として本学卒業生である橋本孝之日本 IBM 株式会社副会長による講演が行われ、ダイバーシティの推進が新たな価値を生み出すという企業理念とともに、女性、LGBT、障害者、外国人、さらには働き方の



基調講演を行う橋本副会長

多様性に関する取り組みが紹介されました。例えば、次世代の女性リーダーを育てるという社内方針に従わない管理職には減給を課す等、女性の登用が積極的に推進されています。また、法的には認められていない同性婚をした職員に対しても、法律婚をした職員と同様の福利厚生制度が整備されています。さらに、多様な働き方を考えるために、一部署全ての職員を1カ月間在宅勤務させる社内実験を実施し、どこまで在宅で仕事ができるかを検証した結果など、多くを学べる刺激的な基調講演でした。

続いて、猿谷 哲ランスタッド代表取締役社長より国内外の最新の人材マーケット情報とともに多様な働き方を顧客企業に提案した事例の報告がありました。その後、安田芳樹中部電力株式会社多様な人財活躍支援室長と服部昭弘中電ウイング株式会社統括部長からは、社内のユニバーサルデザイン化や障害者の強みを活かした仕事の創出事例が、また、京都大学学生総合支援センターの村田 淳氏からは、障害をもつ学生を社会へと繋ぐ役割が大学に求められていることが話されました。あらゆる人が学びやすく、働きやすい環境のさらなる拡充は重要です。このシンポジウムをダイバーシティ推進の充実発展の契機としていきたいと考えています。

勲章関係等

受章日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H27.11. 4	文化功労者	名誉教授	岡崎 恒子	
H27.11. 3	瑞宝中綬章	元事務局長	小池啓三郎	
H27.11. 3	瑞宝中綬章	名誉教授	小嶋 秀夫	
H27.11. 3	瑞宝中綬章	名誉教授	近藤 一義	
H27.11. 3	瑞宝中綬章	名誉教授	四方 義啓	
H27.11. 3	瑞宝中綬章	名誉教授	辻 敬一郎	
H27.11. 3	瑞宝中綬章	名誉教授	野村 浩康	
H27.11. 3	紫綬褒章	大学院情報科学研究科教授	小澤 正直	
H27.11. 3	紫綬褒章	名誉教授	福田 敏男	

教員

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H27. 5.29	Excellent Poster Award from ICRR 2015	環境医学研究所教授	益谷 央豪	
H27. 6.19	2014年度日本応用数理学会年会 若手優秀講演賞	大学院工学研究科助教	宮武 勇登	
H27. 7. 1	第67回 日本細胞生物学会 若手最優秀発表賞	高等研究院特任助教	丸山 大輔	
H27. 8.27	第27回高遠・分子細胞生物学シンポジウム ポスター発表優秀賞	大学院理学研究科特任助教	石川 由希	
H27. 8.30	永守財団 永守賞	大学院工学研究科教授	長谷川泰久	
H27. 9. 1	第35回交通工学研究発表会 研究奨励賞	大学院環境学研究科研究員	渡部 数樹	
H27. 9. 6	2015年度 日本建築学会大会（関東） 建築デザイン発表会 顕彰	施設・環境計画推進室 准教授	脇坂 圭一	齊川尚樹（大学院環境学研究科 M2）、 服部奨馬（大学院環境学研究科 M2）、 小野竜也（大学院環境学研究科 M1）、 他 2名と連名
H27. 9. 6	第20回 日本植物形態学会 平瀬賞（論文賞）	高等研究院特任助教	丸山 大輔	
H27. 9. 7	2015年度 環境科学会 論文賞	前大学院環境学研究科 特任准教授	劉 晨	林 良嗣（大学院環境学研究科教授）、 安成哲三（名誉教授）と連名
H27. 9. 9	電子情報通信学会通信ソサイエティ活動功労賞	未来材料・システム研究所 助教	小林健太郎	
H27. 9.10	第9回バイオ関連化学シンポジウム 講演賞	トランスフォーマティブ 生命分子研究所特任准教授	萩原 伸也	
H27. 9.11	日本地質学会 論文賞	大学院環境学研究科助教	瀧瀬 佑衣	サイモン ウォリス（大学院環境学研究科 教授）と連名
H27. 9.11	日本オペレーションズ・リサーチ学会 第5回 論文賞	大学院情報科学研究科教授	柳浦 睦憲	他 3名と連名
H27. 9.13	応用物理学会 第9回（2015年度）フェロー表彰	未来社会・システム研究所 教授	白石 賢二	
H27. 9.16	第27回日本神経免疫学会学術集会 Young Neuroimmunologist Award	環境医学研究所特任助教	遠藤 史人	
H27. 9.16	日本金属学会 学術貢献賞	大学院工学研究科教授	金武 直幸	
H27. 9.16	ヨウ素学会賞	大学院工学研究科教授	石原 一彰	
H27. 9.16	2015年度 高分子学会 Wiley 賞 （SPSJ Wiley Award 2015）	大学院工学研究科准教授	佐藤浩太郎	
H27. 9.16	高分子学会三菱化学賞	大学院工学研究科准教授	竹岡 敬和	
H27. 9.17	第40回日本医用マンスペクトル学会年会 若手優秀ポスター賞	大学院医学系研究科助教	林 由美	財津 桂（大学院医学系研究科准教授）、 他 9名と連名
H27. 9.17	ADMETA Technical Achievement Award 2014	大学院工学研究科准教授	中塚 理	坂下満男（大学院工学研究科助教）、 財満鎮明（未来材料・システム研究所教授） と連名
H27. 9.18	日本航空協会 航空功績賞	ナショナルコンポジット センター特任教授	石川 隆司	

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H27. 9.18	2016 Ta-Shue Chou Lectureship Award	トランスフォーマティブ生命分子研究所教授	伊丹健一郎	
H27. 9.18	日本セラミックス協会 第28回秋季シンポジウム 特定セッション「生体との調和を生み出すセラミックスの開発と評価」 若手優秀発表賞	未来材料・システム研究所 助教	林 幸彦朗	
H27. 9.19	第3回(2015年度) 野島久雄賞	大学院教育発達科学研究科 准教授	清河 幸子	
H27. 9.19	Best Paper Award, The 2015 2nd International Conference on Advanced Materials, Mechanics and Structural Engineering 2015 (AMMSE 2015)	未来材料・システム研究所 研究員	サルマン サラ	
H27. 9.22	20th JADEN Award (第20回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 優秀演題賞)	大学院医学系研究科 寄附講座講師	岡崎研太郎	他2名と連名
H27. 9.26	日本鉱物科学会論文賞	宇宙地球環境研究所教授	榎並 正樹	田口知樹(大学環境学研究科 D3)と共同受賞
H27. 9.28	SSDM2015 Paper Award	大学院工学研究科准教授	中塚 理	
H27.10. 1	J.I.S.R.I. e-ASIA 2015 Excellent Award	大学院工学研究科研究員	ナジェンダ ツアレヴァ	神田英輝(大学院工学研究科助教)、後藤元信(大学院工学研究科教授)と連名
H27.10. 1	IEEE Robotics and Automation Society Japan Chapter Young Award (IROS2015)	大学院工学研究科特任助教	早川 健	
H27.10. 6	第10回生協総研賞 研究賞	大学院環境学研究科准教授	丸山 康司	
H27.10.11	植生学会 奨励賞	大学院環境学研究科研究員	鈴木 康平	
H27.10.12	第5回(2015年) 柳田知司賞	医学部附属病院准教授	永井 拓	
H27.10.13	2015 Asia Game Changers	未来材料・システム研究所 教授	天野 浩	
H27.10.13	丸八会顕彰	未来材料・システム研究所 教授	天野 浩	
H27.10.14	バイオインダストリー協会 2015年度化学・生物素材研究開発奨励賞	大学院工学研究科准教授	清水 一憲	
H27.10.15	三井物産環境基金10周年記念 研究助成成果表彰 優秀賞	大学院医学系研究科教授	加藤 昌志	
H27.10.18	平成27年度臓器移植対策推進功労者に対する 厚生労働大臣感謝状		名古屋大学 医学部附属病院	
H27.10.18	Travel Award, The 2015 World Congress of Psychiatric Genetics	大学院医学系研究科研究員	王 晨堯	
H27.10.19	アメリカ甲状腺学会2015年バンミーター賞 (2015 Van Meter Award)	トランスフォーマティブ生命分子研究所教授	吉村 崇	
H27.10.20	日本大気化学会 奨励賞	宇宙地球環境研究所講師	中山 智喜	
H27.10.20	日本結晶成長学会 業績賞および赤崎勇賞	未来材料・システム研究所 教授	天野 浩	
H27.10.23	組込みシステムシンポジウム優秀報告賞	大学院情報科学研究科 特任教授	佐藤 健哉	高田広章(未来社会創造機構教授)、他2名と連名
H27.10.25	日本災害情報学会 2015年度阿部賞	減災連携研究センター 准教授	廣井 悠	
H27.10.25	日本災害情報学会 2015年度河田賞	減災連携研究センター 寄附研究部門助教	倉田 和己	福和伸夫(減災連携研究センター教授)と連名
H27.10.26	日本生物工学会 第34回生物工学賞	大学院工学研究科教授	飯島 信司	
H27.10.26	平成26年度 HPC 利用研究課題優秀成果賞	大学院工学研究科准教授	石原 卓	
H27.10.29	応用物理学会 結晶工学分科会発表奨励賞	大学院工学研究科特任助教	志村 洋介	
H27.10.31	独立行政法人日本学術振興会 平成27年度 科学研究費助成事業 審査委員表彰	大学院情報科学研究科 准教授	川合 伸幸	
H27.10.31	独立行政法人日本学術振興会 平成27年度 科学研究費助成事業 審査委員表彰	減災連携研究センター教授	野田 利弘	
H27.10.31	独立行政法人日本学術振興会 平成27年度 科学研究費助成事業 審査委員表彰	環境医学研究所教授	益谷 央豪	
H27.11. 1	地域研究コンソーシアム 研究作品賞	大学院環境学研究科教授	横山 智	
H27.11. 2	地球電磁気・地球惑星圏学会 大林奨励賞	宇宙地球環境研究所 特任助教	桂華 邦裕	

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H27.11. 5	第11回商事法務研究会賞	大学院法学研究科准教授	吉政 知広	
H27.11. 5	Asian Core Program/Advanced Research Network Lectureship Award	大学院工学研究科助教	永縄 友規	
H27.11. 5	Asian Core Program/Advanced Research Network Lectureship Award	物質科学国際研究センター助教	中 寛史	
H27.11. 6	日本核医学会 2015年久田賞 (Annals of Nuclear Medicine 賞) 銀賞	大学院医学系研究科教授	山本 誠一	
H27.11. 6	Cum Laude of Fukuoka City Award, The 10th Asian Oceanian Congress of Neuroradiology(AOCNR2015)	脳とこころの研究センター教授	磯田 治夫	他1名と連名
H27.11. 8	Best Oral Presentation in AOCMP 2015 (The 15th Asia-Oceania Congress of Medical Physics)	大学院医学系研究科特任助教	加茂前 健	長縄慎二(大学院医学系研究科教授)、伊藤善之(大学院医学系研究科特任教授)他4名と連名
H27.11.11	Community Service Award	大学院情報科学研究科教授	間瀬 健二	
H27.11.11	Recognition of Service Award	大学院情報科学研究科教授	間瀬 健二	
H27.11.12	Best Young Scientist Award, The 6th International Symposium on Growth of III – Nitrides ISGN-6	大学院工学研究科学振外国人特別研究員	ベ シヨン	カドア レハール(未来材料・システム研究所研究員)、出来真斗(未来材料・システム研究所助教)、本田善央(未来材料・システム研究所准教授)、天野 浩(未来材料・システム研究所教授)と連名
H27.11.14	日本青年心理学会学会賞	大学院教育発達科学研究科准教授	河野 莊子	他2名との共著
H27.11.16	2015-16 R. C. Fuson Visiting Professor Lectures	トランスフォーマティブ生命分子研究所教授	伊丹健一郎	
H27.11.16	Research Innovation Symposium Exposition 2015 Silver Award	大学院情報科学研究科教授	大岡 昌博	他3名と連名
H27.11.17	設立40周年記念特別賞 高齢者福祉部門	未来社会創造機構教授	葛谷 雅文	
H27.11.17	第4回 名古屋大学石田賞	高等研究院特任助教	丸山 大輔	
H27.11.19	平成28年度日本薬学会奨励賞	大学院創薬科学研究科講師	小坂田文隆	
H27.11.21	日本時間生物学会奨励賞	トランスフォーマティブ生命分子研究所特任准教授	中道 範人	
H27.11.21	軽金属学会 軽金属論文賞	大学院工学研究科准教授	高田 尚記	
H27.11.21	2015年度科学技術社会論学会・柿内賢信記念賞(実践賞)	大学院生命農学研究科准教授	田中 隆文	
H27.11.25	MHS2015 Best Paper Award	未来社会創造機構教授	新井 史人	他2名と連名
H27.11.27	第14回日本農学進歩賞	大学院生命農学研究科助教	近藤 竜彦	
H27.11.28	日本環境動物昆虫学会奨励賞	大学院環境学研究科研究員	中西 康介	
H27.12. 1	Thieme Chemistry Journal Award 2016	大学院工学研究科助教	ウヤヌクムハメット	
H27.12. 1	環境情報科学センター 学術委員長賞	大学院環境学研究科寄附講座助教	竹内 彩乃	
H27.12. 5	Banyu Chemist Award –BCA 201– Banyu Life Science Foundation International	大学院工学研究科助教	ウヤヌクムハメット	
H27.12. 6	アメリカ物理学会 Fellow	未来材料・システム研究所教授	天野 浩	
H27.12. 8	国際学術講演賞 (Science Lectureship Award 2015)	トランスフォーマティブ生命分子研究所客員教授	鳥居 啓子	
H27.12. 9	国土緑化推進機構 ウッドチャレンジ2015 木質外構・外装材提案会優良作品	大学院環境学研究科准教授	古川 忠稔	
H27.12. 9	NEDO Technology Commercialization Program (TCP) 2015 最優秀賞	遺伝子実験施設教授	多田 安臣	野元美佳(大学院理学研究科 D3)、福田雄一(学術研究・産学官連携推進本部特任講師)、南 賢尚(学術研究・産学官連携推進本部特任講師)と連名
H27.12. 9	国際会議誘致・開催貢献賞	大学院情報科学研究科教授	吉田 久美	
H27.12. 9	平成27年度有機合成化学「奨励賞」	大学院創薬科学研究科講師	澁谷 正俊	
H27.12.10	ウッドデザイン賞運営事務局 ウッドデザイン賞2015	大学院環境学研究科准教授	古川 忠稔	恒川和久(大学院工学研究科准教授)、太幡英亮(大学院工学研究科准教授)と連名
H27.12.11	第16回ガルデルマ賞	医学部附属病院助教	小川 靖	

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H27.12.11	2015年有機合成化学協会研究企画賞	教養教育院講師	伊藤 英人	
H27.12.13	日本比較内分泌学会奨励賞	トランスフォーマティブ生命分子研究所教授	吉村 崇	

学生

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H27. 3.19	第88回 日本薬理学会年会優秀発表賞	大学院医学系研究科 D3	由良 義充	
H27. 4.13	日本化学会 第95春季年会(2015) 学生講演賞	大学院工学研究科 D2	杉岡 大輔	
H27. 5.27	IEEE Robotics and Automation Society Japan Chapter Young Award (ICRA2015)	大学院工学研究科 M2	杉浦 広峻	
H27. 5.28	日本地球惑星科学連合2015年大会固体地球科学セクション学生優秀発表賞	大学院環境学研究科 D3	永治 方敬	
H27. 6.30	第67回大会(2015年度)日本細胞生物学会若手優秀発表賞	大学院医学系研究科 D4	由良 義充	
H27. 8.28	Graduate Travel Award, The 17th Annual Convention of Society for Personality and Social Psychology	大学院教育発達科学研究科 D1	寺嶌 裕登	
H27. 9. 4	日本生物工学会中部支部 支部長賞	大学院工学研究科 D2	新井小百合	
H27. 9. 4	2015年度 支部共通事業 日本建築学会設計競技 最優秀賞	大学院環境学研究科 M1	小野 竜也	蒲健太郎(大学院環境学研究科 M1)、服部奨馬(大学院環境学研究科 M2)と連名
H27. 9. 5	高分子学会東海支部 第153回東海分子研究会講演会 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	小鹿 将誉	
H27. 9. 5	高分子学会東海支部 第153回東海分子研究会講演会 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	竹嶋 久晶	
H27. 9. 5	高分子学会東海支部 第153回東海分子研究会講演会 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	大威 英晃	
H27. 9. 5	高分子学会東海支部 第153回東海分子研究会講演会 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	森本 一弘	
H27. 9. 5	高分子学会東海支部 第153回東海分子研究会講演会 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M1	後藤 峻介	
H27. 9. 7	環境科学会2015年会 修士課程学生の部 優秀発表賞(富士電機賞)	大学院環境学研究科 M1	佐藤 大起	
H27. 9.11	Best Poster Presentation Award, The 9th Symposium on Biorelevant Chemistry, CSJ	大学院工学研究科 M1	河合 隼人	
H27. 9.11	第9回バイオ関連化学シンポジウム ポスター賞	大学院理学研究科 M2	中島 彩夏	
H27. 9.11	日本オペレーションズ・リサーチ学会 学生論文賞	大学院情報科学研究科 M2	高田 陽介	
H27. 9.13	日本地質学会第122年学術大会 優秀ポスター賞	大学院環境学研究科 M2	河原 弘和	
H27. 9.13	日本地質学会第122年学術大会 優秀ポスター賞	大学院環境学研究科 M2	五ノ井祐二	
H27. 9.14	日本機械学会機素潤滑設計部門 第21回卒業研究コンテスト優秀発表	大学院工学研究科 M1	田上 裕也	西村英典(大学院工学研究科 D2)、上坂裕之(大学院工学研究科准教授)と連名
H27. 9.15	新学術領域「植物細胞壁機能」若手ワークショップ/第9回細胞壁ネットワーク定例研究会 優秀口頭発表賞	大学院理学研究科 M1	寺島 彰	
H27. 9.16	第18回ヨウ素学会シンポジウム 最優秀学生ポスター賞	大学院工学研究科 D1	魯 彦会	石原一彰(大学院工学研究科教授)と連名
H27. 9.16	第32回有機合成化学セミナー 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 D3	小倉 義浩	石原一彰(大学院工学研究科教授)と連名
H27. 9.16	日本セラミックス協会 第28回秋季シンポジウム 特定セッション「誘電材料の新展開ー革新技術の創出と新分野への貢献ー」 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M1	丸山 莉果	
H27. 9.16	日本セラミックス協会 第28回秋季シンポジウム 特定セッション「次世代を切り拓くハイブリッドマテリアル」 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M1	佐藤 嘉崇	
H27. 9.17	第14回情報科学技術フォーラム FIT 奨励賞	大学院工学研究科 M2	加藤 亮	

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H27. 9.17	日本金属学会 2015年秋期講演大会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M2	森本 慎平	湯川 宏 (大学院工学研究科助教)、 村田純教 (大学院工学研究科教授) と連名
H27. 9.17	日本金属学会 2015年秋期講演大会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M1	小國 和樹	武藤俊介 (未来材料・システム研究所教授) と連名
H27. 9.17	第32回有機合成化学セミナー ポスター賞	大学院理学研究科 D1	齋藤雄太郎	
H27. 9.17	日本金属学会2015年秋期講演大会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M1	小國 和樹	武藤俊介 (未来材料・システム研究所教授)、 他4名と連名
H27. 9.18	第108回日本繁殖生物学会大会 優秀発表賞	大学院生命農学研究科 D2	池上 花奈	東村博子 (大学院生命農学研究科教授) 上野山賀久 (大学院生命農学研究科 准教授)、他7名と連名
H27. 9.26	2015年度 スケジュール学会 学会賞 (技術賞)	大学院工学研究科 M1	長谷 陽平	
H27. 9.26	2015年度 スケジュール学会 学術賞	大学院情報科学研究科 D2	呉 偉	柳浦睦憲 (大学院情報科学研究科教授)、 他2名と連名
H27. 9.26	基礎有機化学会 第26回基礎有機化学討論会 ポスター賞	大学院工学研究科 M2	加藤 祥平	
H27. 9.26	日本鉱物科学会 論文賞	大学院環境学研究科 D3	田口 知樹	榎並正樹 (宇宙地球環境研究所教授) と 連名
H27. 9.26	日本環境共生学会第18回 (2015年度) 地域シンポジウムポスター優秀発表賞	大学院環境学研究科 M2	猪原 暁	
H27. 9.26	第26回基礎有機化学討論会 ポスター賞	大学院理学研究科 D3	八木亜樹子	
H27. 9.26	第26回基礎有機化学討論会 ポスター賞	大学院理学研究科 M1	戸田 雄佑	
H27.10. 1	J.I.S.R.I. e-ASIA 2015 Poster Award	大学院工学研究科 D3	星野倫太郎	村上和弥 (大学院工学研究科 M1)、 ワーユディオノ (大学院工学研究科研究員)、 神田英輝 (大学院工学研究科助教)、 後藤元信 (大学院工学研究科教授) と連名
H27.10. 2	日本鉱物科学会 研究発表優秀賞	大学院環境学研究科 D3	田口 知樹	
H27.10. 8	Student Poster Award, International Conference on Silicon Carbide and Related Materials 2015	大学院工学研究科 M2	王 振江	
H27.10.14	日本惑星科学会2015年度最優秀発表賞	大学院理学研究科 D3	田中 佑希	
H27.10.19	IEEE IRIS2015 Best Paper Award	大学院情報科学研究科 D3	モハメド アゼイムビン マツ ジュゾー	
H27.10.21	日本大気化学会 第21回大気化学討論会 学生優秀発表賞	大学院環境学研究科 D3	陳 慶彩	
H27.10.21	日本大気化学会 第21回大気化学討論会 学生優秀発表賞	大学院環境学研究科 M2	川淵衣里子	
H27.10.23	日本整形外科基礎学会 優秀演題賞	大学院医学系研究科 D4	竹上 靖彦	大原美静 (高等研究院特任講師)、 大野欽司 (大学院医学系研究科教授)、 石黒直樹 (大学院医学系研究科教授) と 連名
H27.10.23	Outstanding Poster Paper Award, The 19th International Symposium on Advanced Display Materials and Devised (ADMD 2015)	大学院工学研究科 M2	水野 佑	
H27.10.23	第11回日本バイオロギング研究会シンポジウム 最優秀ポスター賞	大学院環境学研究科 M2	菅原 貴徳	
H27.10.26	第9回分子科学討論会 優秀講演賞	大学院理学研究科 D1	水野 麻人	
H27.10.28	日本機械学会マイクロ・ナノ工学部門 第6回マイクロ・ナノ工学シンポジウム 若手優秀講演表彰	大学院工学研究科 D1	小林 敬之	
H27.10.29	Student Award, 10th International Symposium on Atomic Level Characterizations for New Materials and Devices '15	大学院工学研究科 D2	王 辰星	
H27.10.30	電子情報通信学会 コミュニケーションオリティ 研究会 コミュニケーションオリティ基礎講座 ワークショップ 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M2	峰松 容浩	
H27.11. 3	Student Best Paper Award – Track 5, IEEE SENSORS 2015	大学院工学研究科 M2	今枝 航大	松島充代子 (医学系研究科助教)、 川部 勤 (医学系研究科教授) と連名

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H27.11. 4	Young Paper Award(Oral Presentation), 2015 International Workshop on Dielectric Thin Films for Future Electron Devices (IWDTF 2015)	大学院工学研究科 M2	長江 祐樹	
H27.11. 7	第52回日本航空宇宙学会 関西・中部支部合同秋期大会 最優秀学生賞	大学院工学研究科 D2	市原 大輔	ジョン ジェフン(大学院工学研究科 M2)、 水谷佳祐(大学院工学研究科 M1)、 岩川 輝(大学院工学研究科助教)、 佐宗章弘(大学院工学研究科教授)と連名
H27.11. 7	第52回日本航空宇宙学会 関西・中部支部合同秋期大会 中部支部学生賞	大学院工学研究科 M2	内賀嶋 瞭	市原大輔(大学院工学研究科 D2)、 岩川 輝(大学院工学研究科助教)、 佐宗章弘(大学院工学研究科教授)と連名
H27.11.12	日本化学会 第5回CSJ化学フェスタ2015 優秀ポスター発表賞	大学院工学研究科 D2	後藤 優太	波多野学(大学院工学研究科准教授)、 石原一彰(大学院工学研究科教授)と連名
H27.11.12	日本化学会 第5回CSJ化学フェスタ2015 優秀ポスター発表賞	大学院工学研究科 D1	魯 彦会	石原一彰(大学院工学研究科教授)と連名
H27.11.12	日本化学会 第5回CSJ化学フェスタ2015 優秀ポスター発表賞	大学院工学研究科 D1	馬原 優治	大山順也(大学院工学研究科助教)、 薩摩 篤(大学院工学研究科教授)、 他4名と連名
H27.11.12	日本化学会 第5回CSJ化学フェスタ2015 優秀ポスター発表賞	大学院工学研究科 M2	西村 仁希	
H27.11.12	日本化学会 第5回CSJ化学フェスタ2015 優秀ポスター発表賞	大学院工学研究科 M2	竹嶋 久晶	
H27.11.12	日本化学会 第5回CSJ化学フェスタ2015 優秀ポスター発表賞	大学院工学研究科 M2	植田 格弥	大山順也(大学院工学研究科助教)、 薩摩 篤(大学院工学研究科教授)、 他2名と連名
H27.11.12	日本化学会 第5回CSJ化学フェスタ2015 優秀ポスター発表賞	大学院理学研究科 M1	上原 弘夢	
H27.11.12	日本化学会 第5回CSJ化学フェスタ2015 優秀ポスター発表賞	大学院理学研究科 M1	四坂 勇磨	
H27.11.12	日本化学会 第5回CSJ化学フェスタ2015 優秀ポスター発表賞	大学院理学研究科 M1	日比野 柁	
H27.11.12	日本化学会 第5回CSJ化学フェスタ2015 優秀ポスター発表賞	大学院創薬科学研究科 D1	松井 一真	
H27.11.12	Best Young Scientist Award, The 6th International Symposium on Growth of III - Nitrides (ISGN-6)	大学院工学研究科 M2	佐藤 大樹	西谷智博(シンクロトロン光研究センター 特任講師)、本田善央(未来材料・システム 研究所准教授)、天野 浩(未来材料・ システム研究所教授)と連名
H27.11.12	Young Scientist Award, The 6th International Symposium on Growth of III - Nitrides (ISGN-6)	大学院工学研究科 M1	山本 哲也	田村 彰(大学院工学研究科 M2)、 宇佐美茂佳(大学院工学研究科 M2)、 永松謙太郎(大学院工学研究科研究員)、 新田州吾(未来材料・システム研究所特任 准教授)、本田善央(未来材料・システム 研究所准教授)、天野 浩(未来材料・ システム研究所教授)と連名
H27.11.13	第25回キャラクターゼーション講習会 ポスター賞	大学院工学研究科 D1	馬原 優治	大山順也(大学院工学研究科助教)、 薩摩 篤(大学院工学研究科教授)、 他3名と連名
H27.11.14	人文地理学会 第15回人文地理学会学会賞 (論文部門)	大学院環境学研究科 D3	杉江 あい	
H27.11.16	Poster Award, The 8th International Forum on Chemistry of Functional Organic Chemicals (IFOC-8)	大学院理学研究科 D2	大島 寛也	
H27.11.17	IGER 分子科学研究所リトリート研修 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 D2	岡本 遼	波多野学(大学院工学研究科准教授)、 石原一彰(大学院工学研究科教授)と連名
H27.11.17	IGER 分子科学研究所リトリート研修 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 D1	横井 寛生	
H27.11.19	日本建築学会大会学術講演会 材料施工委員会 若手優秀発表	大学院環境学研究科 M2	橋本 大地	
H27.11.19	新学術領域「環境記憶統合」第一回若手の会 ポスター賞	大学院理学研究科 D3	野元 美佳	
H27.11.20	CSIS DAYS 2015 優秀研究発表賞	大学院環境学研究科 D2	清水沙耶香	岡本耕平(大学院環境学研究科教授)、 他1名と連名

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H27.11.21	第3回 Heart Science Club 最優秀賞	大学院医学系研究科 D4	由良 義充	
H27.11.21	第13回日本流体力学会中部支部講演会 中部支部講演会優秀賞	大学院工学研究科 D1	丹波 高裕	正田達郎 (大学院工学研究科 M2)、 ファン ホアン ソン (大学院工学研究科 M1)、岩川 輝 (大学院工学研究科助教)、 佐宗章弘 (大学院工学研究科教授) と連名
H27.11.22	第22回日本時間生物学会 優秀ポスター賞	大学院生命農学研究科 D3	太田 航	
H27.11.24	Best Poster Presentation Award, NIBB Retreat 2015	大学院理学研究科 D3	岡 和	
H27.11.25	第64期学術講演会 日本材料学会 塑性工学部門委員会 優秀学生講演発表賞	大学院工学研究科 M2	杉山 博宣	大野信忠 (大学院工学研究科教授)、 奥村 大 (大学院工学研究科准教授) と 連名
H27.11.25	Best Poster Award, 2015 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science	大学院工学研究科 D2	室崎 裕一	新井史人 (未来社会創造機構教授)、 佐久間臣耶 (未来社会創造機構特任助教) と連名
H27.11.25	Best Poster Award, 2015 International Symposium on Micro-Nano Mechatronics and Human Science	大学院情報科学研究科 M2	加藤 祐規	吉田俊平 (大学院情報科学研究科 M1)、 大岡昌博 (大学院情報科学研究科教授)、 他2名と連名
H27.11.27	2015年第33回電気設備学会全国大会 発表奨励賞	大学院工学研究科 M2	大橋 亮介	
H27.11.27	2015年第33回電気設備学会全国大会 発表奨励賞	大学院工学研究科 M1	玉尾 一真	
H27.11.29	Outstanding Presentation Award, International Symposium on EcoTopia Science 2015	大学院工学研究科 D2	池 進一	他8名と連名
H27.11.29	Outstanding Presentation Award, International Symposium on EcoTopia Science 2015	大学院工学研究科 M2	浅井 孝憲	
H27.11.29	Outstanding Presentation Award, International Symposium on EcoTopia Science 2015	大学院工学研究科 M2	石川 凌	義家 亮 (大学院工学研究科准教授)、 成瀬一郎 (未来材料・システム研究所教授)、 植木保昭 (未来材料・システム研究所助教) と連名
H27.11.29	Outstanding Presentation Award, International Symposium on EcoTopia Science 2015	大学院工学研究科 M2	清水 寿紀	植木保昭 (未来材料・システム研究所助教)、 義家 亮 (未来材料・システム研究所准教授)、 成瀬一郎 (未来材料・システム研究所教授) と 連名
H27.11.29	Outstanding Presentation Award, International Symposium on EcoTopia Science 2015	大学院工学研究科 M2	小澤 直哉	林幸彦朗 (未来材料・システム研究所助教)、 坂本 渉 (未来材料・システム研究所准教授)、 余語利信 (未来材料・システム研究所教授)、 他2名と連名
H27.11.29	法と心理学会第15回大会 (2014年) 大会発表賞	大学院環境学研究科 D3	應治 麻美	藤本 亮 (大学院法学研究科教授)、 唐沢 穰 (大学院環境学研究科教授)、 他1名と連名
H27.11.30	第46回中部化学関係学協会支部連合秋季大会 特別討論会「21世紀を拓く有機化学」VIP 賞	大学院工学研究科 D1	山川 勝也	波多野学 (大学院工学研究科准教授) 石原一彰 (大学院工学研究科教授) と連名
H27.11.30	第46回中部化学関係学協会支部連合秋季大会 有機化学一般研究発表 優秀賞	大学院工学研究科 D2	岡本 遼	波多野学 (大学院工学研究科准教授)、 石原一彰 (大学院工学研究科教授) と連名
H27.12. 1	第29回画像符号化シンポジウム 学生論文賞	大学院工学研究科 M2	宮城 雄介	
H27.12. 5	第42回有機典型元素化学討論会 優秀ポスター賞	大学院理学研究科 D2	吉富 哲志	
H27.12. 5	第42回有機典型元素化学討論会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M2	加藤 祥平	
H27.12. 7	第46回中部化学関係学協会支部連合秋季大会 東海高分子優秀学生発表賞	大学院工学研究科 M2	小鹿 将誉	

* 受賞者の所属・職名又は学年は、受賞当時

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成27年11月16日～12月15日]

記事	月日	新聞等名
1 駆ける魂：世界陸上5000メートル、抜群の勝負動發揮。マラソンでの活躍も期待 日本郵政グループ鈴木亜由子氏 本学卒業生	11.16 (月)	日経 (夕刊)
2 キャンパスコンサート：12月2日 豊田講堂で愛知県立芸術大学大学院生2人がピアノを、同大卒業生がバイオリンを演奏する	11.17 (火)	中日 (朝刊)
3 ただ今就活中：知るカフェ「知るカフェ名古屋大学前店」が取り上げられ、就職支援イベントで日本ガイシ株式会社小川保典氏本学卒業生が講師を務めた	11.17 (火)	中日 (朝刊)
4 駆ける魂：バスケット掛け持ち、中2で陸上2冠。高校時代はケガに泣く 日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生	11.17 (火)	日経 (夕刊)
5 第31回博物館企画展北の縄文人ー豊かな海と山にかこまれてー開催：10日～2016年1月23日	11.17 (火) 11.18 (水) 11.25 (水) 12. 2 (水) 12. 9 (水)	中日 (朝刊) 朝日 (夕刊) 朝日 (夕刊) 朝日 (夕刊) 朝日 (夕刊)
6 拓く研究者98：瀬川泰知理学研究科特任准教授 CNT 効率製法に挑む	11.18 (水)	日刊工業
7 名古屋市交通局 大学と連携拡大へ 平松泰周さん工学部3年生は、つり革にスマートフォン充電機能を付けることを提案し、小林竜大さん工学部3年生は駅構内に「お食事選定マスター・ソムリエさん」という機器の前に立つと、機器側が映像から人数や年齢層など情報を把握し、おすすめのお店を教える機器の設置を提案	11.18 (水)	朝日 (朝刊)
8 本学で名古屋国税局長藤田博一氏が「税務行政の現状と課題」と題して講演	11.18 (水)	毎日 (朝刊) 他2社
9 本学発の車載ソフトベンチャー APTJ に富士ソフト株式会社が3000万円出資する	11.18 (水)	日経 (朝刊)
10 時のおもりのSSH 科学フェスティバル 地域を探り普遍につなぐ 池内 了本学名誉教授	11.18 (水)	中日 (朝刊)
11 駆ける魂：名大を経て、創部控えた日本郵政へ。常識覆す進路で成長 日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生	11.18 (水)	日経 (夕刊)
12 石原一彰工学研究科教授らは「アミド」の生成効率を大幅に高める新しい合成方法を開発	11.18 (水) 11.25 (水) 12. 2 (水)	化学工業日報 中日 (朝刊) 日刊工業
13 東山哲也トランスフォーマティブ生命分子研究所教授と栗原大輔理学研究科特任助教らのグループは植物を丸ごと透明化し、中まで観察する新技術を開発	11.19 (木) 11.21 (土)	日経 (朝刊) 毎日 (夕刊)
14 医学部附属病院はアジアで発症例の多い先天性胆道拡張症と診断された東欧マケドニアの8歳の少女の手術を実施した	11.19 (木)	中日 (朝刊)
15 経済観測：日本が示す強大国の姿 丹羽宇一郎本学名誉博士	11.19 (木)	毎日 (朝刊)
16 内田 良教育発達科学研究科准教授は学校での重大事故の被害者の家族による勉強会が開催されたことを受け「重要なのは事実究明だ。何がどのように起きているのか解明することが抑止につながる」と語る	11.20 (金)	毎日 (朝刊)
17 東海経済シンポジウム開催：5日 森川高行未来社会創造機構教授がパネルディスカッションに参加し、丹羽宇一郎本学名誉博士が講演	11.20 (金)	朝日 (朝刊)
18 京都府立林業大学校長只木良也氏本学元教授が地域活性化フォーラム「緑が拓く地域の芽」で討論	11.20 (金)	毎日 (朝刊)
19 素粒子宇宙起源研究機構 一般相対論誕生100年記念市民講演会開催：21日 國枝理事、杉山 直理学研究科教授、東京大学教授梶田隆章氏が講演し、梶田氏は「いつの日にか宇宙が生まれたときの重力波を観測したい」と語る	11.22 (日)	中日 (朝刊) 他4社
20 博物館野外観察園セミナーハウス サテライト展示名大の蛾 I. 秋～冬の蛾開催：24日～2月19日	11.23 (月)	中日 (朝刊)
21 教育発達科学研究科附属高大接続研究センター公開講演会「高大を接続するー米国と日本の高大接続の現在と未来ー」開催：12月5日	11.23 (月)	中日 (朝刊)
22 献体 増える高齢者「大学が火葬費負担」動機に 名古屋市の献体希望者の窓口になっている名古屋市の団体「不老会」から9586人の遺体が本学などで実習に生かされた	11.23 (月)	読売
23 へいわを伝える 戦後70年の教室 第4部〈4〉：スーパー高校生 吉野裕斗さん教育学部附属高等学校生は5月から高校を休学して世界一周の旅に出て、世界のボランティアの現場を目で確かめている	11.23 (月)	中日 (朝刊)
24 京都賞 知をたたえて30年 主な歴代受賞者で赤崎 勇本学特別教授が取り上げられる	11.24 (火)	朝日 (朝刊)
25 天野 浩未来材料・システム研究所教授が馳 浩文部科学相を訪問し、省エネルギー研究の取り組みについて説明した	11.26 (木)	日経 (朝刊)
26 加藤真平情報科学研究科准教授ら自動運転システムの研究を進めている本学教員が、12月に新会社「ティアフォー」を設立する	11.26 (木)	中日 (朝刊)
27 日本芸術院 新会員：榎 文彦本学名誉博士	11.26 (木)	毎日 (朝刊) 他2社
28 トップインタビュー：「世界屈指」へ改革進展 松尾総長は「最大案件は技術進歩や要請の変化にあわせた情報・工学系の再編」と語る	11.27 (金)	日刊工業
29 本学は日経 BP コンサルティグによる「大学ブランド・イメージ調査2015～2016 (北陸・東海編)」で8年連続首位になった	11.27 (金)	日経 (朝刊)
30 医学部附属病院の混合診療が政府の愛知県国家戦略特区のすでに規制緩和された事業として取り上げられる	11.27 (金)	日経 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成27年11月16日～12月15日]

記事	月日	新聞等名
31 愛知県 多彩な産学連携で成果 本学は「トランスフォーメティブ生命分子研究所」に気鋭の研究者80人を集め専門の垣根を越えて新たな研究テーマを模索し、6月には産学官共同研究拠点「ナショナルイノベーションコンプレックス」を完成、10月には「GaN 研究コンソーシアム」を設立した	11.27 (金)	日刊工業
32 LED 普及 価格が課題「30年度に100%」達成できる？ 赤崎 勇本学特別教授、天野 浩未来材料・システム研究所教授が青色LEDを開発したことで、白色の光を出すことが可能になり、照明器具に使われるようになったと取り上げられる	11.27 (金)	中日 (朝刊)
33 国際経済政策研究センター・キタン会第22回名古屋ビジネスセミナー「最近の金融経済情勢と展望」開催：12月3日	11.27 (金)	読売
34 のよりサロン：「科学技術とイノベーション」議論重ね生きる力つく 野依良治本学特別教授	11.28 (土)	中日 (朝刊)
35 日韓国交正常化50周年記念「日韓弁論大会」：最優秀賞 朴 珍珠さん法学部4年生	11.29 (日)	中日 (朝刊) 読売
36 第4回全国学生英語プレゼンテーションコンテスト：文部科学大臣賞 菊池達也さん本学4年生	11.29 (日)	読売
37 二宮芳樹未来社会創造機構特任教授は国土交通省が、道路運送車両法が定める自動車の保安基準を改定し、ミラーをカメラとモニターで代用することを認めたことについて「雨の日や車内に荷物を置いた時、ミラーでは見えにくいカメラだと鮮明に捉えることができる」と語る	11.30 (月)	毎日 (朝刊)
38 菱川明栄物質科学国際研究センター教授、伏谷瑞穂理学研究科助教らのグループは、強いレーザーパルスを使って量子状態を高速かつ高効率に操作する技術を開発	12. 1 (火)	日刊工業
39 天野 浩未来材料・システム研究所教授がスウェーデン大使公邸で開かれたノーベル賞祝賀会に出席	12. 1 (火)	中日 (朝刊)
40 いまドキッ！大学生：カメ研究者へ一歩一歩 田村ユカさん環境学研究科博士課程前期1年生	12. 1 (火)	中日 (朝刊)
41 加藤真平情報科学研究科准教授が1日に設立した「ティアフォー」や高嶋博之情報科学研究科特任准教授が9月に設立した「APTJ」など、本学から自動車に関連するベンチャー企業が続々と生まれている	12. 2 (水)	朝日 (朝刊)
42 減災館で建物自体を揺らして地震を再現する授業があり、工学部2年生200人が揺れの仕組みを学んだ	12. 2 (水)	中日 (朝刊)
43 第69回全日本学生音楽コンクール全国大会シリーズ：大学の部 入選 西影星二さん本学6年生	12. 2 (水)	毎日 (朝刊)
44 高田広章未来社会創造機構教授らが設立した大学発ベンチャー「APTJ」は、豊田自動織機やジェイテクトなどと車載制御システムのソフトウェアプラットフォームを共同開発すると発表	12. 2 (水)	日経 (朝刊) 日刊工業
45 天野 浩未来材料システム研究所教授は本学を訪れた馳 浩文部科学相に窒化ガリウムの研究を説明	12. 4 (金)	読売
46 生きものたちの時間 吉村 崇トランスフォーメティブ生命分子研究所教授⑨：魚の季節センサー「血管囊」の重要な役割	12. 4 (金)	中日 (朝刊)
47 健康教育講座開催：10日 長谷川好規医学系研究科教授が「COPD (慢性閉塞性肺疾患) 診療の現状と課題」のテーマで講義	12. 4 (金)	読売
48 説話文学会例会 シンポジウム「山寺をめぐる道と山寺に遺された書物～地方の文化遺産から見えるもの」開催：12日 阿部泰郎文学研究科教授が講演	12. 4 (金)	読売
49 不戦のつどい開催：8日 安川寿之輔本学名誉教授	12. 4 (金)	朝日 (夕刊)
50 医学部附属病院内に設けたドナルド・マクドナルド・ハウスなごやが2年を迎えた	12. 5 (土)	朝日 (朝刊)
51 JST20周年記念事業 公開対談「若い世代へノーベル賞科学者からの提言～科学技術で次の時代を切り開け～」開催：1月9日 赤崎 勇本学特別教授と京都大学教授山中伸弥氏が対談	12. 5 (土)	中日 (朝刊)
52 中部ひと模様：20年かけ8000点収集 戦場の惨禍 伝える執念 戦争に関する資料館 運営協議会会長塩澤君夫本学名誉教授	12. 5 (土)	日経 (朝刊)
53 科学の扉：天然物化学の巨人たち 故平田義正本学名誉教授の研究室から輩出した研究者として、野依良治本学特別教授、下村 脩同特別教授、岸 義人同特別教授、中西香爾同特別教授、上村大輔同名誉教授、故後藤俊夫同名誉教授が取り上げられる	12. 6 (日)	朝日 (朝刊)
54 病院の実力：慢性頭痛「緊張型」ストレスも原因 本学の治療実績が取り上げられる	12. 6 (日)	読売
55 COP21気候変動会議 今後の展望は 合意は新枠組みの出発点 高村ゆかり環境学研究科教授	12. 7 (月)	日経 (朝刊)
56 備える3.11から 災前の策 第122回想定シリーズ⑩ 心のケア：松本真理子心の発達支援研究実践センター教授 抱え込まず 話して解消	12. 7 (月)	中日 (朝刊)
57 第77回東海学生駅伝対抗選手権大会：3位 名古屋大学	12. 7 (月)	中日 (朝刊)
58 本学や東京大学大気海洋研究所、海洋研究開発機構などは共同で、GPSによる海鳥の行動追跡情報を使って、海流予測の精度を向上させることに成功	12. 8 (火)	日刊工業
59 医人伝：医学附属病院地域連携・患者相談センター 粕田剛資技術専門職員 退院後の不安をケア	12. 8 (火)	中日 (朝刊)
60 浅田 舞のスポ友！⑫：陸上長距離 日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生 競り勝つ強さ ほしい	12. 8 (火)	読売
61 高橋 隆医学系研究科教授、鈴木 元同講師らの研究グループは、肺がんが他の器官に転移するのを防ぐ仕組みを解明	12. 9 (水)	中日 (朝刊)
62 読売新聞講座「アベノミクスと世界経済」開催：9日 読売新聞東京本社調査研究本部・中村宏之主任研究員が留学生約30人に英語で講義	12.10 (木)	読売

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成27年11月16日～12月15日]

記事	月日	新聞等名
63 経済観測：中華民族の夢 丹羽宇一郎本学名誉博士	12.10 (木)	毎日 (朝刊)
64 人工知能 東京大学入試に挑戦 言語処理を担当した松崎拓也工学研究科准教授は「計算が速いのは確かだが、たとえば確率では、サイコロが何かという常識を知らない。約数や倍数など整数の問題も苦手だ」と語る	12.10 (木)	中日 (夕刊)
65 伊藤好孝宇宙地球環境研究所教授が東京大学教授梶田隆章氏の招待でノーベル賞授賞式に出席するのを前に「ノーベル賞はがんばれば、手の届く世界とわかった。この感覚を次の世代に引き継ぐのが我々の役目です」と語る	12.10 (木) 12.11 (金)	朝日 (夕刊) 中日 (夕刊) 読売
66 日本の受賞者24人に 日本のノーベル賞受賞者で、野依良治本学特別教授、益川敏英同特別教授、小林 誠同特別教授、下村 脩同特別教授、赤崎 勇同特別教授、天野 浩未来材料・システム研究所教授が取り上げられる	12.11 (金)	読売
67 ノーベル賞受賞記念特集 日本の底力～科学技術立国に向けて～:科学技術分野での日本人のノーベル賞受賞者と主な業績で野依良治本学特別教授、益川敏英同特別教授、小林 誠同特別教授、下村 脩同特別教授、赤崎 勇同特別教授、天野 浩未来材料・システム研究所教授と業績が取り上げられる	12.11 (金)	日経 (朝刊)
68 2015年ノーベル賞晩餐会が開かれ、かつて益川敏英本学特別教授がノーベル物理学賞を受賞し出席した時も近くには日本語を話せる人を配置するなど、会話がはずむように考え抜かれている	12.11 (金)	朝日 (夕刊)
69 名古屋大学英文学会クリスマス・セミナー開催：18日 文学部1階大会議室で行われる	12.12 (土)	朝日 (朝刊)
70 歴史学入門講座：19日 春日 豊本学名誉教授が講演	12.12 (土)	朝日 (朝刊)
71 大村さん・梶田さん ノーベル賞授賞式 日本の自然科学系のノーベル賞受賞者で野依良治本学特別教授、益川敏英同特別教授、小林 誠同特別教授、下村 脩同特別教授、赤崎 勇同特別教授、天野 浩未来材料・システム研究所教授が取り上げられる	12.12 (土)	朝日 (朝刊)
72 本学などの超小型衛星3基を搭載予定のH2Aロケット30号機を来年2月12日に種子島宇宙センターから打ちあげると三菱重工株式会社が発表	12.13 (日)	読売
73 COP21「パリ協定」採択 高村ゆかり環境学研究科教授は「すべての国が温暖化対策に取り組む国際的基盤が構築された」と評価する	12.15 (火)	日刊工業
74 本学は法学研究科長に石井三記同教授を、経済学研究科長に野口晃弘同教授を選出	12.15 (火)	中日 (朝刊)
75 ウケる授業:名古屋大学 小説の書き換え 日比嘉高文学研究科准教授は学生が著名な作家や詩人の作品を書き直し、批評し合う授業を開いている	12.15 (火)	中日 (朝刊)
76 いまドキッ!大学生:フリーペーパー企画、取材 本学と南山大学の学生がつくるフリーペーパー「粋」は、両方の大学の学生を対象を絞ったフリーペーパーと取り上げられる	12.15 (火)	中日 (朝刊)

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

10月21日(水)～1月30日(土)
 場 所：附属図書館医学部分館
 2階入口ホール
 時 間：9:00～20:00(平日)、
 13:00～17:00(土曜日)
 休 館 日：日・祝日
 入 場 料：無料

**附属図書館医学部分館ミニ展示会
 「名古屋のセンパイ！ 明治編
 ー名古屋大学全学同窓会大学支援事業①ー」**

内 容：明治4年(1871年)の名古屋大学創基から昭和22年(1947年)の名古屋帝国大学が名古屋大学へと改称されるまでの、本学の前身校に在学、在職した著名人に関連する、入手が困難になりつつある古書も含めた図書、文書、写真、絵葉書等によるコレクションを展示公開する



[関連特別講演会]

1月27日(水)
 場 所：医学部基礎研究棟 1階会議室 2
 時 間：10:00～11:30
 講演題目：「尾張医学の大先輩 伊藤圭介ーその医学と本草学」
 講 演 者：山内一信(本学名誉教授)
 参 加 費：無料

[問い合わせ先]
 附属図書館医学部分館 052-744-2505

11月7日(土)～3月12日(土)
(期間中の土曜日 全8回)
 場 所：経済学部2階
 カンファレンスホール
 時 間：10:00～12:00
 対 象：中学生以上、一般
 参 加 費：無料

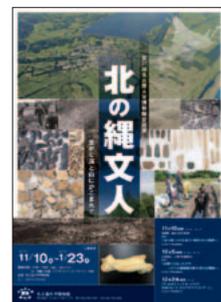
**名古屋大学オープンカレッジ
 「自由奔放！サイエンスー知識・博学への挑戦」**

内 容：大学の研究室で行われている最新の研究やその熱意をできるだけわかりやすく伝える

[問い合わせ先]
 経済学研究科
 エクステンション・サービス
 ecoextender@soec.nagoya-u.ac.jp

11月10日(火)～1月23日(土)
 場 所：博物館2階展示室
 時 間：10:00～16:00
 休 館 日：日・月曜日
 入 場 料：無料

**第31回博物館企画展
 「北の縄文人ー豊かな海と山にかこまれてー」**



[問い合わせ先]
 博物館事務室 052-789-5767

**11月24日(火)～2月19日(金)、
 2月29日(月)～4月15日(金)**
 場 所：博物館野外観察園
 セミナーハウス2階
 時 間：10:00～16:00
 休 館 日：土・日・祝日
 入 場 料：無料

博物館野外観察園セミナーハウスサテライト展示

「名大の蛾 I. 秋～冬の蛾」(11/24～2/19)
 「写真サークルの写真展」(2/29～4/15)



[問い合わせ先]
 博物館事務室 052-789-5767

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

11月25日(水)～2月6日(土)

場 所：減災館
時 間：13:00～16:00
休 館 日：日・月・祝日、第2・4火曜日
入 場 料：無料

減災館第12回、第13回特別企画展

テ ー マ：「昭和東南海地震」(第12回)、
「三河地震」(第13回)



[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

1月19日(火)

場 所：医学部保健学科本館2階
第1講義室
時 間：18:30～20:00
対 象：学生、教員、医療関係者
参 加 費：無料

第86回ライフトピア連携研究会

講演題目：「障がい児療育における歯科医療の実践と課題
－健康と歯と行動療法－」
講 演 者：大岩隆則氏(愛知県立心身障害児療育センター
第二青い鳥学園歯科部長)



[問い合わせ先]

医学部保健学科 THP 人材育成室
教育研究支援室 052-719-3158

1月20日(水)

場 所：減災館1階減災ホール
時 間：18:00～19:30
定 員：100名
対 象：一般
参 加 費：無料

第117回防災アカデミー

講演題目：「国の防災対策とその地震・津波像について」
講 演 者：横田 崇氏(愛知工業大学教授)



[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

1月22日(金)

場 所：豊田講堂
時 間：10:00～18:00
定 員：1,200名
対 象：有機合成化学やケミカルバイオ
ロジーに興味のある方
参 加 費：無料

第21回名古屋メダルセミナー

講演題目：「化学的手法による新たな作用機構を持つ化合物の開発および
医療への応用 (Chemistry towards Novel Mechanism-of-Action
(nMoA) Compounds in Therapeutics Discovery)」、
「化学およびヒト生物学の手法を用いたがん治療の開発 (Chemistry
and Human Biology towards Cancer Therapeutics Discovery)」

講 演 者：スチュアート・シュライバー氏(ハーバード大学教授)
講演題目：「レアアースおよび第4族金属錯体を用いた新たな化学変換反応
(Rare Earth and Group 4 Metal Complexes for Novel Chemical
Transformations)」

講 演 者：侯 召民氏(理化学研究所教授)
内 容：有機合成化学



[問い合わせ先]

トランスフォーマティブ生命分子研究所
特任助教 宮崎亜矢子 052-789-4999

1月26日(火)

場 所：情報基盤センター4階演習室
時 間：13:00～14:30
定 員：40名
対 象：一般
参 加 費：無料

平成27年度第10回情報連携統括本部公開講演会・研究会

講 演 者：嶋田 創(情報基盤センター准教授)

[問い合わせ先]

情報推進部情報推進課 052-789-4368

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

1月28日(木)、29日(金)

場 所：野依記念学術交流館
 対 象：学生、一般
 参 加 費：無料(懇親会費は5,000円(一般)、
 3,000円(学生))

[問い合わせ先]

宇宙地球環境研究所基盤研究部門
 年代測定研究部 052-789-2579

**第28回宇宙地球環境研究所年代測定研究部
 (旧年代測定総合研究センター) シンポジウム**

講演題目：「加速器質量分析技術の発展と応用研究の拡大」
 講 演 者：中村俊夫(宇宙地球環境研究所教授)
 講演題目：「グリーンランド・イスア地域の岩石から読み解く
 約38億年前の生命圏」
 講 演 者：大友陽子氏(北海道大学特別研究員)
 講演題目：「能登半島で観測されるPM2.5の季節的特徴」
 講 演 者：松木 篤氏(金沢大学准教授)



1月29日(金)

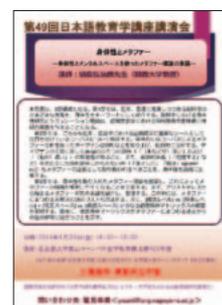
場 所：全学教育北棟4階
 多目的講義室(406室)
 時 間：16:30~18:00
 対 象：一般
 参 加 費：無料

[問い合わせ先]

国際言語文化研究科 准教授 鷲見幸美
 ysumi@lang.nagoya-u.ac.jp

国際言語文化研究科 第49回日本語教育学講座講演会

講演題目：「身体性とメタファー
 —身体性とメンタルスペースを使ったメタファー理論の素描—」
 講 演 者：鍋島弘治朗氏(関西大学教授)



2月4日(木)~4月5日(火)

場 所：博物館2階展示室
 時 間：10:00~16:00
 入 場 料：無料
 休 館 日：日・月曜日

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

**第32回博物館企画展「ボタニカルアート作品展」
 「伊藤篤太郎生誕150年
 —初めて植物に学名を付けた日本人—」**

[関連特別講演会]

場 所：博物館3階講義室
 時 間：13:30~15:00
 講演題目：「カサノリに魅了された日本の植物学者」(2/6)
 講 演 者：北山太樹氏(国立科学博物館研究主幹)
 講演題目：「菌類と伊藤太郎、ナメコの絵がタイプ標本になった？」(2/13)
 講 演 者：大坪 泰氏、折原貴道氏(神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員)
 講演題目：「標本の収集と保管—その歴史と意義」(2/20)
 講 演 者：秋山 忍氏(国立科学博物館研究主幹)
 参 加 費：無料



2月13日(土)、14日(日)

場 所：名古屋市科学館(名古屋市中区)、
 蒲郡市生命の海科学館(愛知県蒲
 郡市)、三田石材(愛知県西尾市)
 時 間：14:00~16:30(2/13)、
 9:00~16:00(2/14)
 定 員：30名
 対 象：小学3年生以上、一般
 (小学生は保護者同伴)
 参 加 費：2,000円

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

**第48回地球教室—フィールドセミナー—
 「鉱物をさがそう！」**

内 容：鉱物の性質について学習し鉱物の採集と鑑定をする



イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

2月27日(土)、3月5日(土)

場 所：博物館 2階展示室

時 間：14:00～15:00

定 員：200名 (立ち見あり)

参 加 費：無料

博物館コンサート NUMCo

「ウクレレデュオ」(2/27)

演奏曲目：「ナブアモハラ (花は咲く)」、

「メドレー (ふるさと、浜辺の歌等)」、他

出 演：Yeh☆'ie (イエーイエ)、千田初子氏 (フラ)

「博物館が JAZZY になる」(3/5)

出 演：長谷川智則氏、他

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767



名大トピックス No.272 平成28年 1月15日発行

編集・発行／名古屋大学総務部広報渉外課

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。

名古屋市千種区不老町 (〒464-8601)

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ

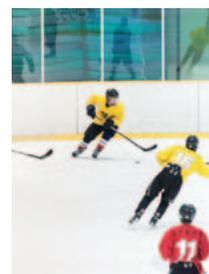
(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。

表紙

練習風景

(アイスホッケー部)

(平成27年12月1日)



165 「衛生のみち」をたどる — 愛知医学校と近代医学の曙^{あけぼの} —

昨年11月1日、「『衛生のみち』歴史ウォーク2015」が、53名の参加者を集めて、名古屋市内において行われました。NPO法人「市民まちづくり風の会」が主催し、名古屋大学医学部が後援、塩野谷恵彦名誉教授が監修した、今回が初めてのイベントです。名古屋時代の後藤新平を顕彰するプロジェクトの一環として企画されました。

「衛生のみち」とは、日本の近代的な衛生行政を確立した後藤新平が、明治初年の若き日に名大医学部の前身である愛知医学校・愛知病院で校長兼院長を務めるなどして過ごし、その衛生に関する知見を育んだ場所一帯をたどる道のことです。当時ここには、後藤が師事したお雇い外国人ローレツや司馬凌海^{まも}といった当代一流の人物がおり、その下で社会全体の生を衛る、すなわち衛生の概念をも包摂した近代医学の発展の基礎が築かれました。

「歴史ウォーク」当日は、参加者を3班に分け納屋橋を出発、案内人の方の詳しい説明を聴きながら「衛生のみち」

をたどりました。

まず屋形船に乗って堀川を遊覧しました。愛知医学校・愛知病院は、天王崎の堀川河岸にあり、地域の人々から「河の病院」として親しまれていました。その堀川を望む場所には記念碑が建てられています。

屋形船を降りてからは、ゆかりの施設や記念碑を見て歩きました。まず愛知医学校のあった場所にあたる株式会社トーエネック本社を通って、洲崎^{すさき}神社を詣でました。ここで休憩したのち、かつて堀川に注いでいた紫川跡の水路、後藤新平の住居跡などを見学し、大須の大光院を訪れました。ここには司馬凌海の記念碑があります。その後、大須の街を案内されながら、西本願寺別院に到着しました。1877(明治10)年に天王崎に移転するまで、ここに病院や医学校がありました。

「衛生のみち」は、5年後に150周年を迎える名大の創基(1871年)をしのぶ道であるとも言えるでしょう。



1	2	3
4	5	

- 堀川から見た愛知県立医学専門学校(愛知医学校の後身、1903年設置)・愛知医学校。
- 堀川から見た愛知医学校記念碑。2007年に名古屋外科支援機構から名大に建設寄附された。すぐ後ろに見えるのが愛知医学校跡にあたるトーエネック本社(中区栄1丁目)。
- 洲崎神社。トーエネック本社(愛知医学校跡)から南へ約100m。疫病や災厄を除く素戔鳴尊(すさのみこと)を祀る。創建は9世紀とされる。
- 後藤新平住居跡。洲崎神社のすぐ近くにある。
- 司馬凌海記念碑。司馬が1879年に亡くなった後、1882年に建てられた。